

平成24年第5回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成24年12月10日(月曜日)

議事日程第3号

平成24年12月10日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 25名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又夫稔君
20番	樋口英一君	21番	松尾徹郎君
22番	野本信行君	23番	斉藤伸一君
24番	伊井澤一郎君	25番	鈴木勢子君
26番	新保峰孝君		

欠席議員 1名

19番 高澤公君

+

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	本間	政一君	
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	吉岡	正史君		
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君		
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君		
青海事務所	長	木下	耕造君	市民課	長	竹之内	豊君		
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	加藤	美也子君		
健康増進課	長	岩崎	良之君	交流観光課	長	滝川	一夫君		
商工農林水産課	長	斉藤	孝君	建設課	長	串橋	秀樹君		
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者	会計課	長	結城	一也君	
ガス水道局	長	小林	忠君	消防	長	小林	強君		
教育	長	竹田	正光君	教育次	長	伊奈	晃君		
教育委員会	こども課	長	吉田	一郎君	教育委員会	教育総務課	長兼務		
教育委員会	文化振興課	長	佐々木	繁雄君	教育委員会	生涯学習課	長		
歴史民俗資料館	長兼務				中央公民館	長兼務			
長者ヶ原考古館	長兼務				市民図書館	長兼務			
					勤労青少年ホーム	館長兼務			
					監査委員	事務局	長	横田	靖彦君

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	主任	主	査	水島	誠仁君
主	査	大西	学君					

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、高澤 公議員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

+

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、保坂良一議員、23番、斉藤伸一議員、兩名を指名いたします。

日程第2．一般質問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

7日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

4番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は2点について伺いをいたします。

1、市勢発展の短期・中長期の重要な取り組みについてであります。

合併から間もなく8年、新市の調整時期から各種の課題に本腰を入れなければならない時期に入っております。糸魚川市第2次行政改革、総合計画の後期基本計画が新たにスタートしましたが、成果をあげるには時代に即した手法への変革が求められていると考えます。特に、行財政改革については、「経営」という新しい発想に立ち、行政運営から「行政経営」へ、そして、市民の目線での「市民経営」という視点での取り組みが極めて重要になってきております。

さらに、市勢発展の基本であります人口減少対策、産業振興については、重要課題と位置づけて、成果の上がる戦略的な取り組みが必要と考えます。

以上の観点から、次の点について伺います。

(1) 短期対策としての行財政改革についてであります。

第2次行政改革大綱では、厳しい財政見通しが示され、実施計画により推進されておりますが、市勢発展の短期対策としては守りの対策もやむを得ないところであります。ただ、目標達成と持続性ある改革には、全身全霊の取り組みと意識改革が必要であると考えますが、その見通しと対応について伺います。

(2) 中長期対策としての人口対策、産業振興についてであります。

市勢発展の対策とは、市が直面している重要課題への対応であり、中長期的には人口対策と産業振興に力を入れなければならないと考えます。それには、攻めの対策として積極的に市外対応ができる体制をつくり、新幹線時代における新たな戦略の構築が必要と考えますが、その見通しと対応について伺います

2、行政運営の手法と住民満足度についてであります。

ある調査機関の調査では、日本の行政満足度は世界の最低レベルという調査結果が出ています。

これは行政機関の事業などの取り組みに対する評価でなく、行政サービスに関する評価であり、行政サービスの質、手法の見直しにより、住民満足度の向上と加えて効率的な行政運営が可能と考えます。

特に、最近は利用者のニーズに応じたサービスの提供など、一步踏み込んだ対応が求められています。

さらに、地方分権の進展による地域間競争に対応していくため、自治体運営を根本的に見直す改革が求められています。

以上の観点から、今回は市民とのつながりという点についてお伺いをいたします。

(1) 市民参画や協働、企業などとの連携についてであります。

市民参画や協働、企業などとの連携により、行政サービスの拡充やより市民のニーズに応える行政を求められておりますが、その実状と手法について伺います。

(2) 情報の共有による分かりやすい行政運営についてであります。

情報公開や説明責任をより充実させ、市民との情報の共有を図り、分かりやすい行政運営を求められておりますが、その実状と手法について伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、行政改革大綱に基づいた実施計画により取り組みを進めておりますが、その推進項目の中で数値化できるものとしたしましては、職員の定員管理では、17年度と24年度の当初比較では90人の削減、人件費を含む経常経費では17年度と23年度決算比では、約4億8,100万円を削減いたしております。また、未利用資産の売却では、18年度から23年度までの総額で、約1億7,200万円となっております。持続的に行財政改革を進めるためには、職員の意識改革が必要でありますことから、職員研修のほか内部監査の実施や職員提案による事務改善を進めております。

一方では、市民から理解をいただけないと実施が困難な取り組みが多いことから、ご理解いただけるよう市民との連携を強化して取り組んでまいりたいと考えております。

2点目につきましては、主な人口対策といたしまして、次世代育成支援行動計画に基づき、産み育てやすい子育て環境への整備を進め、少子化に歯どめをかけるべく取り組みをいたしております。

また、新たな産業振興策といたしまして、地元特産品の販売促進に関し、糸魚川なりわいネットワークを足がかりに、重点地区を定めた首都圏攻勢を進めてまいります。あわせてシティープロモーションを促し、都市間の異業種交流と定住の促進を図ってまいります。

2番目の1点目につきましては、各種審議会への市民参加、地域づくりプランや防災活動、環境衛生活動等における市民との協働、また、雇用促進や社会福祉サービスの提供による企業との連携などに取り組み、市民の多様なニーズに応える行政サービスの拡充に努めております。

2点目につきましては、広報紙、ホームページ、出前講座などによる情報発信、地区訪問懇談会やご意見直通便による回答、パブリックコメント、行政懇談会や各種事業別の説明会等により、市民の皆様との情報の共有に努めておりますし、また、行政運営の中で行っておるところでございます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

じゃあ2回目の質問に入らせていただきますが、まず、短期対策としての行財政改革についてであります。

第1次行政改革では、計画の6割が達成できたけども、4割が成果が不十分だというふうにされておるんですが、なぜ不十分であったのか。概要で結構ですが、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

行革の中で、第1次では6割ほど実施ができたわけですが、その残り4割ほどが進んでいないということでもあります。これにつきましては取り組みやすいものと、それから時間をかけて検討をしなきゃいけないもので、なかなか調整がつかなかったというものがあつたことによるものというふうに思っておりますが、そこで実施できなかったものについては、第2次のほうに取り込んで、その成果を出すべく努めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、課長のお話では、成果が不十分であった37件については、再度計画に挙げて取り組んでいるということですが、1年半、第2次の期間に入っておりますけども、その37件につきましては、1年半でかなり動きがあつたものでしょうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

行革で今回送られたものの中では、いわゆる最終的に、ここまで行くということが決まってない、常に毎年、毎年、少しずつよくしていこうというような項目もあるものですから、そういったものについては、今後いわゆる通常、日常の業務の中でやるべきこととして、行革の項目として外して

いくというような、違う整理の仕方をしなきゃいけないというような項目が、あるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

第2次行政改革の中では、当市を取り巻く課題の中で、いわゆる俗に言う27年問題でしょうか、27年度以降を見据えた行財政改革を推進する必要があるとしておるわけですが、その見通しと対策については、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

私のほうからは財政上の27年問題という角度から、少しお話をさせていただきたいと思っています。

やはり合併10年という時点が27年問題でありますけれども、大きくは国の制度による27年問題と、糸魚川市が置かれている課題という意味での27年問題があるというふうに考えております。国の制度につきましては渡辺議員もご承知のとおり、合併特例債のいわゆる使用できる期間が26年までということでありましたけれども、昨年3.11の災害を契機に、我々の被災地以外の団体も5カ年の使用期間を延長になりました。ただ、使用期間が延長になったということでありまして、金額がふえるということではありません。

もう一つは地方交付税が合併10年間は、いわゆる3本算定と言われる、合併前の市町村それぞれで算定をした交付税の合併額で来た。大変優遇をされたわけで、これを金額にしますと24年度では、1本算定と3本算定の差は13億円弱あります。これが5年後には、簡単に言えば13億円が減るということになるわけでありまして、ただ、24年度の数字で申し上げればということでありまして、そういった国の制度。

それから市の課題からいきますと、やはり生産年齢人口、少子化でもありますけれども、特に生産年齢人口の減少に伴う市税の減少、それから一方では地域課題、まだまだ大型事業が合併10年の中で、何とか課題解決をしたいと思っている事業も、もう少し後に整備計画を送らざるを得ない事業も幾つかあります。そういった大きな公共事業が、この後に来るとということで、やはり対応といたしましては、財政サイドといたしましては、健全な財政運営ということが最大の課題でありますので、中期、あるいはまた長期の財政見通しを毎年ローリングをしながら、健全な財政運営に努めてまいりたいと考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それと今、国では決められない政治が国民の不信感につながっているということでもありますけど

も、当市においては同じように、市民の不信感を招いているというふうな現象というのはどう捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

国のほうでは政権が目まぐるしく変わっておるというような状況で、政治不信というような報道がなされております。行政全体を通じますと国・県・市、そういう中で行政が進められておるわけでございますので、市に対するそういう視点もあるうかと思っておりますけれども、私ども基礎自治体といたしましては、住民に一番近いところで行政を運営しておるわけでございますので、住民との対話、情報共有というものに努めていく中で、相互に理解をし合う行政運営に努めてまいりたいと思っておりますし、そのような心がけでここまで進めておるわけでございます。よろしく願います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

行革に関しましては最初に問題を明示して、これをこうすれば糸魚川はよくなるんだと、市がよくなるんだという情報の共有だけでなく、意識も共有して取り組むことが大切ではないかなと。そうすれば効果が出るんじゃないかと思うんですが、いわゆる行政の見える化でしょうかね、こういうことについては、どのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

行政改革を推進する上で、市民の皆さんから参加をしていただく行政改革推進委員会という組織を設けております。この委員会は市民15名の方から入っていただいて、そのうち3名の方が公募委員となっております。その方たちに出席をいただきながら、年に最低でも3回という形で開催をしております。

その中では行革の進捗状況であるとか実施計画の策定、それから5年に一度、大綱を策定するようなときには市長のほうから諮問をし、それに対する答申をいただくと。また毎年度、1年間を振り返って、次年度に向けて取り組むべき課題であるとか、そういったことの提案もいただく中で、行政改革を年々進めさせていただいているというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

行革の場合は、どちらかというと事業を立ち上げるのと違って、行政のスリム化というものが多
いわけですが、そうなりますと現場部門の意見を伺ってからつくるような方針だと、なかなか
改革ができないというふうに思うんですが、管理部門が指示を出して、どうすればいいのか現場
に知恵を出していただくと。いわゆるトップダウン的な改革が必要かなというふうに感じるん
ですが、その点はいかが捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

議員おっしゃるように行政改革については、トップダウン型でやるほうが、やりにくい問題に関
して言えば、そういった手法が考えられるのかなということではありますが、我々事務的サイドから
言いますと、ちっちゃなことと言われるかもしれませんが、我々が日ごろの業務の中で改善、改
革をしていくことによって、行革につなげていくというような事柄もございますので、いずれがよ
ろしいかというのは難しいとこであります。当然、理事者の意向を受けながら、行政改革を進め
ているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

かつてニュージーランドのボルジャー首相が、当時、訪問していた橋本龍太郎元首相ですが、行
政改革の成功の秘訣について聞かれたときに、国民が何が起きているかわからないうちに、急速か
つ強権的に改革を進めることだというふうに答えたんだそうです。これがいいのか悪いのか、ちょ
っと判断はまちまちですけども、政治の決断というのは、時にはそのような局面も必要なのかな
というふうに思うんですが、市長はどのように感じておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1つの考え方で、全部それを押しはめるとするのは、なかなかできない部分でございまして、今、
私の段階では率直に言ひまして、その両方を使わさせていただいているところがありますので、本
当にちょっと熟慮しなくちゃいけない問題だとか、これは即やらないかなというようなものもあ
りますので、その辺の両面を使わさせていただくのが、一番いいのではないかなと捉えているわけ
であります。

しかしながら、やはり市民生活と直結しておる基礎自治体でございますので、やはり住民とあま
りかけ離れたところでの決断というのは、なかなかできにくいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから成功の秘訣、これは成功するまで諦めないことだと、簡単なようで、なかなか難しいんですが。それと仕組みづくりと並んで運営が重要だというふうなことは、今までのご答弁の中でわかっているんですが、引き続き、この行政改革には力を入れていただきたいと、こういうふうに思います。

それから2番目の中長期対策としての人口対策、産業振興についてであります。まず、確認させていただきたいんですけども、合併から7年8カ月たつわけですが、この間、平成17年から23年の7年間で約4,000人、人口減少が起きてるわけですが、この内容の分析というのは随時されておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

住民基本台帳人口に基づく転入・転出、出生・死亡の数につきましては、毎年度の数字をトータルしまして、年度初めの部課長会議で、情報共有という形で情報を提供させてもらっております。

その数字で申し上げますと、23年度中の出生が、日本人に限っていいますと292人、死亡が733人、その差し引きの自然減というものが441人。転入では813人、転出では1,001人ということで、転入から転出を差し引いた社会減というものが188人という数字でございまして、おおむね自然減のほうが70%、社会減のほうが30%という比率になっております。

これを5年前の平成19年の数字と比べますと、平成19年当時は自然減が約60%でございまして、それが23年度は70%に高まったということでございます。社会減のほうは、したがって40%のものが30%に若干下がっているということでございます。今年度はまだ途中でございまして、今年度もさらに8カ月の数字を見ますと、自然減のほうが74%ぐらいに比率が高まっておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この17年と22年の国勢調査の資料で、全体で2,142人の人口減、これは17年から22年の5年間なんですけども、そのうち15歳から64歳までの生産年齢人口が1,931人減っていると。したがって、その減少の90%が、この年齢層というふうになるわけですが、これによる影響につきましては、先ほど企画財政課長さんから税の減収ということがあったんですけども、そのほかの影響については、どう捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

生産年齢人口の減少の問題は、やはり原因とすれば未婚率の増加ということが1つでありまして、このことが少子化にも当然結びついていくわけですがけれども、単なる税金ということではなくて、やはり人口の減に結びつく1つの大きな要因が、生産年齢人口の数の減少にあらわれているというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市の人口減少対策として直接的な事業としては、ホームページ上で公開されているものに6事業ほどあるんですけども、これらの事業の成果はどの程度か、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

人口減少対策といたしましては、ホームページ上で記載をしているもの以外に各般、行政のいろんな分野にわたっておるわけでありましてけれども、私のほうからその一端という部分で、少し数値化できるものについて説明をしたいと思います。

例えば企画財政課が担当しております事業で、人口減少対策と少子化対策というのは非常に似ている部分もありますけれども、また違った捉え方ができる問題だと思っておりますけれども、その中で1点、結婚支援という課題について取り組みをしております。

これらの内容でありますけれども、出会い創出ということで、19年から5カ年の実績でありますけれども、17回開催して、470人ほどの参加があって、その結果47カップルが誕生するか、そういった結果も出ております。

あるいは、また縁結びコーディネーター事業というのも5カ年の実績の中でお話しますと、14組が結婚成立に至るというような取り組みも、人口減少対策の中で取り組みをしているところであります。

また、子どもを産み育てやすい環境づくりというようなことで、子ども医療費の助成も年々拡充をする中で取り組みをしていることでもありますけれども、23年度から妊娠アシスト支援事業というようなことで、不妊治療に対する助成等も行ってきております。これについて具体的な数字は、私のほうで把握ができておりませんが、これらへの取り組み。

それからもう1つは、やはり産業の振興と雇用の場の創出という面があるかと思っております。既存企業の振興に対する雇用の場の拡大という部分では、ふるさと就職促進事業もあわせて、効果を出しているというふうに捉えております。

またもう1点、看護師の関係につきましても、医療機関で不足する看護師対策として、24年度から新規に看護師就職助成事業もスタートしております。これも大変好評いただいております、ほぼ枠を使い切るような状況になっている報告を受けておるところであります。

人口対策につきましても、もろもろの対策があります。これらにつきましても、今のホームペー

ジのほうにアップしている内容が、決して十分だとは思っておりませんし、また、議会のほうから
もご指摘をいただいておりますので、25年度に向けまして何か人口対策での取り組みを、総括的
な観点から見るような取り組みにしていきたいというふうに今考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

課長の答弁では、各事業はそれなりの成果は上がっているが、しかし人口の減少はとまらない、
非常に難しいですね、これ。

ことし過疎地域で挑戦をしている先進地でしょうか、2カ所見てきたんですけども、それにより
ますと、日本の田舎をすてきに変えるとか、豊かな自然以外に何もありませんと。ないものはない
というようなキャッチフレーズで若者に共感を呼びまして、Iターンの人たちが非常に多く入っ
てきて、この夢の実現を目指して奮闘しておりました。いずれの地区とも、若者たちに合わせた地域
づくりを手がけておまして、ここ数年で転出者よりも転入者が上回る実績を上げているというの
に感心をしてきたわけですが、糸魚川市として現在描いているU・Iターン対策ですか、ありまし
たらお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

Iターンでありますけれども、Uターン、Iターン、Jターンの関係につきましては、現在、糸
魚川の空き家を借りたり、あるいは買ったりにして、住んでいただいているということに対する市の
助成もありますけれども、今23年度から年わずかですけれども、千葉県から2世帯がIターンで
す、移住してきているという状況もあります。現在その制度を使っただいておりますけれども、
これらの制度についても、また結果もお聞きをする中で、果たしてこういった制度で運用がいいの
かどうかという点も確認しながら、また制度を継続していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

糸魚川に住みたいという若者を全国から募集したら、今どれくらい果たして集まってくると思
いますか。先進地では、子どもたちの学力を上げるための人材を全国から募集すると、あるいは新し
い産業を興して加工施設をつくれれば全国から募集する、それから観光協会や役所の職員も全国から
募集するといったぐあいで、今や地域に何があるかはあんまり重要ではなくて、どんな人が集まる
かで、まちの価値が決まるというふうなことも言われておるんですが、この発想の転換でし
ょうかね、こんな視点での取り組みというのは考えたことってありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のように、我々も今その人口対策というのは大きく掲げて進めているんですが、なかなか思うような成果が上がってないのも事実であります。そういう中で我々が今考えますことには、やはりあれもある、これもあるということではなくて、絞り込んだ中で我々はこういうものを提供できます、こういうところにおいてくださいという形を、しっかり明確にしなくてはいけないんだらうと思っております。

全国どこでも同じように海あり山あり川ありの地形の中で、同じような声を出していてもだめなんで、糸魚川はこういうことで、おいでくださいというような絞り込みが必要なんだらうというのは、本当に最近その辺を、どのようにもっていけばいいのか、それをどのようにつくっていけばいいかというところを、私は考えていけなくちゃいけないんだらうと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この人を集めるのが、地域づくりのかなめになっているわけですね。今まではどちらかということ産業誘致であったりしたわけですが、これからは人材誘致というふうなことで、これが地域活性化のポイントだというわけなんですけども、確かにことし市外調査で行った徳島県の神山町、それから政務調査で行きました島根県の海士町では、この人材誘致でまちが再生しつつあるということで、これがある程度形ができれば、非常に相乗効果が生まれてくるというのを実際に私は目にしてきたわけなんですけども、市民と一緒にまちづくりをしようというスタンスが非常に高いものがあったんです。先ほどの市長答弁では、本当にそのような感覚で市長が考えておるということを確認できたんですが、そういう先進事例につきまして、市長もう一度お考えをお願いしたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、市は各地域の皆様方と一体となって、地域の振興、地域の活性化については地域づくりプランの中で、協働で今進めていきたいということで行っているわけでございますし、その市民の皆様方が、自分たちの地域をどのように描いているかというところで、今もおまとめいただいているところもあるわけではありますが、そういう中で、やはり今言われるようなご支援、また、外部の知識を持った人たちが、その中でどのような活躍をいただける場があるのかどうか、そういうものを探しながら、そこに合った人たちにおいていただけるように、また、その地域に魅力があるというところを絞り出しながら、お呼びかけをするのが一番いいのだらうと思ってる次第でございますので、議員ご指摘のような点についても、やはり大事だと思ってるわけでございますので、またその辺を絞り込みながら皆さんでまとめていけるように、そしてまた連携をとっていけるようにしていきたい

いと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

次に、大事な産業振興でありますけども、この中長期戦略のもう1つの大事な取り組みであると思うんですね。この地域資源を生かして産業をつくり雇用の場をつくると、そして外貨を獲得して糸魚川市を活性化するという事なんですが、特産品開発とかブランド化と、今までいろいろな議論されてきたり、実際はかなりやっているとこのうに思うんですけども、なかなか整理されていないんじゃないかなと。また、途中でしぼんでしまっているものも多いんじゃないかというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

6次産業化につきましては、小規模ながらも市内でいろいろ取り組んでいただいておりますけども、これといって爆発的なポイントとなるようなものにつながっていない状況が見られます。

本年度におきましては、なりわいネットワークを立ち上げまして、1次産業の皆様、それから商工業の皆様、金融機関も含めまして、なりわいに結びつくように取り組んでいるところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今まで先進地といわれるところで、成功事例を幾つか見させていただきましたが、いずれも糸魚川市よりも資源や素材がまさっているとは、必ずしも私は思いませんでした。でも、そこにはすばらしいやはり人がいまして、全身全霊を傾けて立ち向かうというその姿勢ですね。そしてその人を信頼して、一緒に行動する人が多く集まっていると。また、それを何よりもバックアップしてくれる行政があるんですね。糸魚川市ではこのような動き、行政のスタンスといいますか、こんな形をつくっていただければなと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今なりわいネットワークの中でも、やはり元気のある1次産業の皆さん、それからリーダーシップを持っておられる方もございますので、そういう方をできるだけ前に出して取り組んでいこうというふうに考えておりますし、それから糸魚川においての情報発信でなくて、もう少し首都圏の

ほうへ出て行ってしっかりと情報を出すと。その情報をつかんだ首都圏の皆さんが糸魚川の魅力を感じて、訪れていただけるというふうな仕組みも考えていかなきゃなんなんと思っております。

特に、1次産業における地域活性化のポイントは、私としては産と産、人と人、それから世代間、そのつながりをしっかりと結びつけていくというところが、ポイントでないかなというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

そうですね。今、課長よりお話がありましたけども、この特産品ブランド化でありますけども、特に新幹線を見据えて東京で通用するというためには、量とか質、時間、そして何よりも情報の発信が大切であるわけですが、この産業の独自性などの強みを積極的に売り込むということになりますと、シティセールスということが重要になってくると思うんですが、このシティセールスに関しては、関係機関とどのような今対応をされているのかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

シティセールスの中では、今年度におきましては首都圏に2回ほど特産品を持ち込みまして、セールスをさせてもらっておりますし、また、地域振興局の農業改良普及センターの皆さんとも一緒に首都圏のほうへ出向いて、特にお米なんかは直売をしていただいとるところもございまして、そのようなところを見てきておりますし、活動をさせてもらってきております。

その中で1つ気がつきましたのは、関越自動車道で三芳サービスエリアの中に直売所がございまして、そのサービスエリアの一角がイベント広場として使えそうなところもございまして、そのようなこと等々、これからシティプロモーションに向けての取り組みを今検討し始めるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

どちらかというと、イベント的な単発的な売り込みというのが非常に目につくんですが、継続的にやはり産業を売り込むということになると、このシティセールスに関してはやっぱり戦略プランをきちっと立てたらいかがかと思うんですが、その点はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今お話いただきましたように、やはり中期的にどういう計画をもって首都圏に売り込むか、また、首都圏の皆さんにおいでいただくかということころは、本年度、なりわいネットワークの初年度でもございますので、ことしの活動をしっかりと反省をしながら、その上で中期的な計画を進めていく必要があるなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから昨年、糸魚川ものづくりネットワークの皆さんですね、東京にアンテナショップが欲しいというふうにおっしゃっておったんですけども、この行政への働きかけというのはあったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

なりわいネットワークの中にも、ものづくりネットワークの皆さんに入っていていただいております。その皆さんと一緒に活動する中におきましては、やはりアンテナショップ的なものが欲しいというお話も聞いておるところでございます。

今年度、なりわいが首都圏に出向きまして活動する中で、そのようなものも少し探りながら活動しておる状況でございますけども、まだ少し整理がついてないという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ことしの市外調査で、このネットワークの力強さを実感してきたわけなんですけども、このお客様といいますか、外に地域の応援団ができたり、そこへいろんなものを流通させるというだけで、安定的な収入が確保できていると。このように商業的に成功させるには、この地域の範囲を出て、市外、県外でも一定の市場を確保すること。それから、また少なくとも数年、この商品の寿命を持ち続ける必要があるわけなので、この仕組みづくりが鍵になるんじゃないかなというふうに感じてきたんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

1つ例を挙げますと、ギフトカタログが第2弾、5,000部発行されました。既に900部売れたというふうに聞いております。

そのギフトカタログを見られたある企業の方、食品会社のバイヤーの方なんですけども、その方が、たまたま糸魚川市出身だということで、市内の1次産業の品物を何か結びつけられないだろう

かというふうに、非常に積極的にお話をいただいております。そういう糸魚川出身の方々のネットも十分に利用しながら、県人会もございませし、糸魚川会もございませし、東京事務所もオープンしたわけでございますので、そういう方々のネットを、しっかりと使っていく必要があるなというふうには感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから産業振興ということで、新たに産業として考えてみたらどうかということでは、1例として、前にもお話をさせていただいたことがあるんですが、この薬草の産地化ですね。昔からこの日本の中山間地は、薬草栽培に最適な環境であるということなんです。代表的には富山県ですけどもね、この糸魚川市も昔からこの薬草が自生してるわけですから、適地だと思うわけですね。この薬草に関して何か情報、あるいは動きがあるものかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

すみません。特にこれといって詳しい情報は、今持ち合わせておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私も少しは調べてみておるんですが、例えばこの薬草の一種でカンゾウという薬草ですね。中国から輸入をしておるわけですけども、この5年間で4倍近くに価格が上昇していると。第2のレアアースだと言われてるんだそうですが。

ちなみに、この薬草全体の市場ですけども、世界市場規模では2兆円だということですね。国内では2,400億円と。日本の生産シェアは10%というふうなことから、これから非常に検討の価値は十分あるのではないかなというふうに思っておりますが、いかがですかね、こういう話を聞いて。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ご提案いただいた分、今後の調査研究とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

なぜ薬草かということになるんですが、今、正直に申し上げまして、米や野菜を育てても収穫の直前で動物に食べられてしまうと。一方では、この薬草というのは鳥獣害どころか、虫も寄りつかないというようなことから、今後この鳥獣害被害に悩む地域にとっては、うってつけかなというふうを感じるわけなんですけど、まあまあ調査研究をこれからしないと何とも言えない面がありますが、一応、調査研究をしていただきたいということをお願いしておきたいと思います。

それから、次に移りたいと思うんですけども、次の項目の市民参画や協働、企業などとの連携についてでありますけど、1例を挙げてお伺いしたいと思うんですけども、私は今まで自立と協働、それからジオサイトの管理、公共空間の美化というふうなテーマで、公共施設の管理とか公共空間の美化に関して、何回か質問をさせていただきました。

その際、アダプトプログラムの制度につきまして、ぜひ導入して市民の協力というか、行政との協働で、市民と行政が一体となった地域活動を市内全域に展開していく必要があるんじゃないかというふうに訴えてまいりましたが、現時点で制度の導入に関しては、行政としてどのようなスタンスであるのか、まずお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

渡辺議員に6月の定例会でも、この一般質問をいただいております。

そのときにもお答えをしておりますけども、現在、市内においてはいろんな形でそういった企業、あるいはまた市民、個人、あるいはまた団体も含めまして、ボランティア活動だけではございませんけども、いわゆる地域貢献型として、いろんな形で活動が展開されている実態がございます。ある意味、これらも含めて、既存に行われている活動も含めて、新たに発生するそういった公共施設に係る部分もあるわけですけども、制度化という部分が課題だというふうにもお答えしてきたと思っています。

一斉にという形での展開については、なかなか難しいかと思っておりますけども、この25年度へ向け何とか制度化できないかという話を今しているところでありますので、もう少し時間をいただきたいというふうにも思っております。

もう1点、やはり渡辺議員のおっしゃっているアダプトの関係は、やはり通年というところに非常に重きを置かれている部分もあるかと思っておりますけれども、糸魚川の地域特性もありますので、あえて通年にこだわらない形での糸魚川式のアダプトといいましょうか、そういった部分も含めて、もう少し検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私の提案は、提案して3年たつわけですね。職員の提案につきましては、制度化して、分類して、また表彰とか発表の機会も設けて、委員会なんかでも成果を報告しているんですね。この種の市民からの提案、どのように扱っているのかということで、若干疑問が残るんですけども、この地域審

議会なんかでは、市民からの提案制度を望む声というのは実際に聞かれるんですよね。したがって、もう行革の中に入れるなり何かをして、市民提案をきちっと受けとめる方法っていうのはできないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

市民の皆様から提案ということでございますけれども、いろんな機会、市民の皆様と懇談する機会、あるいは市長へのたより等で、ご提案をいただいている動きがございます。

それらのものについては現状の状況を踏まえながら、ご提案の趣旨を生かすべく検討をいたしておるところでございますが、先ほど来お話のありました、議員ご提案のアダプトシステムにつきましては、趣旨についてはそのとおりでございます。私ども先ほど企画財政課長がお答えいたしましたように、糸魚川式のそういう仕組みができないかということで取り組みをしておるところでございます。他でやっている状況と同じような形でのシステムを入れることは、なかなか難しいところがございます。それを少しずつ変化を持たせた中で、糸魚川式のものができるようにしたいというふうに思っております。

ご提案についてはいろんな形でありますので、その時々状況に応じてまして、私どもは市民の皆様のご提案を実現すべく、取り組みをしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この市民参画とか協働、企業などとの連携という点では、うってつけの制度であると。また、この相乗効果は計り知れないというふうに私は思っておるわけです。

このアダプトプログラムを採用しなければなくてもいいんです。このプログラム以上にお金がかからなくて、効果の上がる手法というのがあれば、あるいは既に実施しているんだということであれば、なお結構なことであるんです。

ただ1つ気がかりなのは、このジオサイトの管理ですね。これについてお伺いしたいんですが、この24サイトに関して、誰が、どのように管理をしているのか。また、それにかかる経費というのは、どれくらいになってるかということをお聞きをしたいと思います。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前10時55分 休憩

午前10時55分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ジオサイトは24あります。そのうち施設のあるところは、それぞれ所管する部局で金銭的なものを含めて対応させてもらっております。それ以外には、非常にありがたいんですけども、なかなか手が回らない箇所もあります。市内の組織や団体の方、並びに建設業者を含めて、海岸の掃除だとかサイトの除草とか、そういう形で非常にご協力をいただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今お話のように、要はどなたが見学しても、満足できる状態になっているかというふうなことでありますね。この管理状況の報告というのは、きちっとしていただきたいと、こういうふうに思います。

この一連については、これぐらいにしたいと思うんですが、ただ、私もいろんなメリットを引き合いに出しながら言い続けて3年経過をとりんですが、この考えになったもう1つの思いというのを紹介をさせていただきたいと思うんですが。

ケルトの奇跡という実際の出来事でありまして、あるんですね。これはヨーロッパの小国、アイルランド共和国の成長の歴史であると。かつてどん底の経済状況にあったこの国は、今や大勢の観光客が訪れ、さらにIT関連企業の直接投資が相次ぐなど、ヨーロッパ1と言われるほどの経済成長を遂げた。そしてこの奇跡の陰には、自国を愛する国民の強い思いがあったという。

経済が低迷し、人口の流出も続く厳しい状況の中でも、人々や企業は国づくりを諦めることなく、みずからまちの清掃や景観づくりを手始めに、さまざまな公共的活動に取り組んだといえます。そして、この取り組みが長年にわたって継続され、魅力あふれる暮らしやすい国を実現したという。このようにいかなる状況にあっても、まちの主役である市民と行政が手を携え、ともに歩むことこそが、よりすばらしいまちづくりをつくることにつながるというふうなことで、私もそう思っているからであります。

このアダプトプログラムに関しまして、先般ある会合でジオサイトの管理に関して、1つの考え方としてお話をさせていただきましたところ、ある企業の社長さんが関心を示してくださいましたし、また、ある団体の役員さんが、その団体の事業として取り組めば社会貢献事業として、この団体の目指す目的に合致するというふうに言われました。今後どのような検討をされるかわかりませんが、市民の中に協力する姿勢が見られるということをお願いしたいと思います。

それからアダプトプログラムに限らず住民から、自分たちにできることはないかというような声も上がっているんじゃないかと思っております。ぜひこういう制度を立ち上げていただいて、協力をいただきたいと思いますというふうに思います。ゼロ予算で、この糸魚川の奇跡を起こしていただきたいと、こう

いうふうに考えております。

それから、次の2番目の情報の共有によるわかりやすい行政運営についてであります。まず、この広報に関してですけれども、かつて糸魚川・西頸城の行政広報というのは新潟県はもとより、全国的にレベルが高くて、コンクールでは優秀な成績を修めておりましたけれども、現在はこのようなコンクールとか、研さんをする場というのはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

大変申しわけありませんが、今現在、そういったコンクールが行われているかということについては把握をしておりません。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前11時00分 休憩

午前11時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今のものも、なかなか立派な広報紙だというふうに私は思っているんですけども、実際に役立っているかどうかというふうなことは、測定をしないとわからないわけですか。その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

広報が市民の皆さんに役立っているか測定をということではありますが、なかなかそういったことを皆さん全員にお聞きをするということは、非常に難しいことだということと考えております。

ただ、その中でも後期基本計画を立てるに当たりまして、アンケートの中で設問として、本当に粗っぽい設問ですけども入れさせていただいて、その中では重要度とか満足度というようなものはプラスの方向に出ていたということでもありますので、皆さんからは、それなりの評価をいただいているのかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

問題は、市民が必要とする情報と提供する側の情報に、ミスマッチが生じたら困るわけですね。受け手である市民から、いちいち反応は出ないと思うんですけども、このモニター制度とか、定期的なアンケート調査、これは私は必要だと思います。

行政広報、特にホームページに関しては各行政広報の場合、各ページの一番下に、このページは役立ってますか、役立たなかったとか意見を求めたりする、そういうページが非常に行政は多くなってきてるんですが、そういうことも含めて、この調査をするということについてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

議員おっしゃるような形で、市民の皆さんの広報に対する要望等を聞く方法を検討していきたいなということで、今、担当のほうには話をしておりますが、どういった方法でとれば答えが多く寄せいただけるのかも含めて、検討させていただきたいというふうに思います。

それから日本広報協会で、広報コンクールというのが行われているということでもあります。それもあわせて説明させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、広報コンクールがあるということであるんだけど、コンクールに参加をしてないということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

最近は、してないんじゃないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

担当課長から、してないんじゃないかと思うというのは、これは断定的な言葉でないですが、それはしてないのかということを確認させてください。

議長（古畑浩一君）

答弁に当たっては明確にお答えするように、曖昧な答弁では質疑とかみ合いませぬので、行政側の答弁、しっかりとするように議長といたしましてお願いを申し上げます。

再答弁を求めます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

すみません。今、確認をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

議長（古畑浩一君）

渡辺議員、残り時間がちょっと少ないですが、ただいまの答弁は必要でありますか。

4番（渡辺重雄君）

よろしいです。

議長（古畑浩一君）

今来ましたか。じゃあしばしお待ちください。

それを発表してください。

渡辺総務課長。

総務課長（渡辺辰夫君）

コンクールには出ていないということであります。また、今後の検討課題とさせていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

幾つかの情報手段があるわけですが、いずれにしても、情報なくして参加なしという言葉がありますように非常に重要なものなんですね。

次に、ご意見直通便についてでございますが、ホームページには、はがきや電子メールを、いただいたご意見直通便をご紹介しますということで、21年度は26件、22年度は9件、23年度は3件紹介されておりますが、これは受理の総数ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

市長へのたよりという形でいただいております書面、はがき等については、平成23年度は76件ほどございましたので、今言ったのは総数ではないというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

そういたしますと、この紹介の基準というものはあるんでしょうかね。いわゆる多くの中から21年度は26件、22年度は9件、23年度は3件、そうすると紹介に至らないというのは、ど

ういうことで紹介をしてないのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

特徴的なものについて、ご紹介をさせていただいているものというふうに理解をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

地域審議会の委員からは、市長へのたよりに対して消極的な回答が大半であり、これではまた、たよりに出そうという気にはならないし、これでは行政と市民の協働のまちづくりにはなっていないという意見があるんですけども、先ほどの行革のところでも指摘をさせていただきましたが、この住民との感覚のずれというのが、一番問題が出てくると思うんですが、この辺はいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

市長へのたよりに対する回答は、各担当課がつくったものを総括する私どものところで内容を確認をした上で、理事者の決裁をとって回答させていただいておりますが、担当課のほうは確かに今、議員がおっしゃるように非常に消極的といいますか、どうしてもできないことのほうが、強調されている部分があるのかなというふうには感じております。

そういったところは理事者のほうからまた指示いただいて、修正をしたりしてお出しをしておりますけども、それでもなおかつ言われるような事柄があるとすれば、もっと積極的な対応をすべきではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから、回答には2週間程度かかります。内容によっては、さらに時間がかかる場合がありますということなんですけども、実際はどうなのでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

おっしゃるとおり、基本的には2週間以内に回答をさせていただくように努力をしております。

ただ、いろいろな課にまたがって調整が必要なような回答については、多少超える場合があると

いうことでありまして、そういった場合にも、できるだけ2週間以内に回答ができない旨のご連絡を、させていただくような形で進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ぜひそのようにしていただきたいんですね。意見や要望を出している側では、すぐにでも回答がいただけるものと考えている人が非常に多いわけなんですね。結論が今出ないようなものとか判断できないもの、途中経過や、その辺のやっぱり理由を、まず1報入れていただくということもやっていただきたいと思います。

過去に回答がないということで調べさせてもらったら、大変多く返信されていないという文書があったわけですが、その辺は今は大丈夫なんでしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

市長への手紙につきましては、いろんなところから課題が来てるので、行政全般のことにかかわるもの、あるいはそれぞれの事業にかかわるもの等があるわけではありますが、やっぱり今言いましたように、時間のかかるものと、即回答するもの等の時間のずれとかがあるわけですが、今は先ほど言いましたように、2週間以内に必ず出す。出さなければ事前に電話とかメール等で連絡をして、相手にその旨の市の考え方を伝えてから、しっかり進行するように話をしておりますので、時間がかかるというのは中にはあるということだけは、ご理解を願いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

先ほど年間かなり多くのご意見直通便が寄せられるということなんですが、そのうち匿名の意見、要望というのは、どのぐらいあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

匿名といいますか、無記名のものでありますが、おおむね2割から3割ぐらいが、無記名のものとなっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この匿名の直通便についての感想はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

匿名の内容というのは、やはり自分の主張をしっかりと言うことの中であると思っておりますが、それを市長から、あるいは行政から直接求めるものじゃなくて、自分の考えを主張するというのが多いのかなというふうな感じがしております。

それと行政が進めているものと全く反対の意見を持たれている方等が、やはり自分の考えを言っているわけですので、そこら辺の考え方のずれから、匿名の中での市長への手紙だというふうに思っていますが、そういう意見についてもいろんな中身を分析をして、そういう意見があったとか、これはどうすればいいかということは、庁内の中で検討させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから住民懇談会ですね。今年度は33地区でしょうか、33カ所で行われておるわけですが、この地区の選定方法、また各会場の出席者の平均人数ですね、そしてこの内容といたしますか、どのような流れで行っているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

地区訪問懇談会ということで、企画財政課が担当しておりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

24年度は35地区での開催でありました。開催の呼びかけは、全ての自治会の代表者に開催の意向を確認をして、希望される地区については希望される日をお聞きをしながら、地区との調整をして開催に至っているものであります。

35回の開催での参加人数につきましては654人、1カ所平均19人というふうになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

集落の規模によりましては大勢出席する会場、少ない会場があると思うんですが、もう少し参加

しやすさといえますか、工夫をしていただければなというふうに思います。

内容につきましてですが、私も傍聴した地区では住民の皆さんから、行政側からの報告やお願いがほぼ時間を占めておるもんですから、住民の意見、要望を聞いていただく時間をもっとふやしてほしいという意見がありましたので、ぜひその辺も工夫をしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

今回の24年度の振り返りの中でも、渡辺議員のおっしゃられる部分も今回の反省点ではあったかと思っています。

今回の24年度は、特に前年度と変更点とすれば、地区からテーマを投げかけていただくというふうなことで、ある意味、出前講座的な意味合いの濃い地区懇談会を計画したところであります。結果的に、行政側からの説明の部分が長くなった箇所もあったのも事実であります。

この辺、やはり地区懇談でありますので、中にはもちろん要望という部分もあるんですけども、要望会というよりは、むしろ行政と地区の皆さんとの懇談というようなことで、あらかじめテーマを決めながら、テーマを絞ってといいましょうか、話題を絞ってきたものでありまして、今ご指摘の点につきましては、また25年度以降の中で、対応してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いろいろ申し上げましたけども、市政発展のためにはゼロ予算でも効果が発揮できるものもありますし、また、行政の進め方次第では、市民はもとより市外にも多くの協力者がいるんだということですね。そのためには我々は知恵を出し合って、全身全霊で取り組みをすることだというふうに思うわけであります。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

暫時休憩とし、開会を11時30分といたします。

午前11時17分 休憩

午前11時30分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

改めまして、おはようございます。

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。明確で積極的なご答弁を、よろしく願いいたします。

1、一般廃棄物最終処分場再生事業について伺います。

9月10日に糸魚川市並びに市議会に、大野区一般廃棄物最終処分場総合整備検討委員会より、議論の結果、適正化工事を一刻も早く完工するとともに、その後、今まで埋められた廃棄物を再処理し、良質な土砂で埋め戻すことが最良と集約されました。

そこで糸魚川市は、日本環境衛生センターに再生事業の検討を依頼し、大野区並びに市議会特別委員会に報告しました。住民意思を重視し、早期に理解を得られるためにも、以下、具体的に伺います。

(1) 大野区への説明会の日程と市としての提案内容について。

(2) 三重県亀山市と鹿児島県指宿市等の再生事業の調査検討について。

(3) バイオマスや有機性の廃棄物を液体燃料に替えるKDV（触媒無圧解重合方式）軽油製造装置の導入について。

(4) 大野粘土山周辺の現状と利活用について。

2、新幹線時代に対応したまちづくりについて伺います。

(1) 新幹線駅の1階部分の活用並びに駅北商店街のアーケード再構築を含む駅周辺整備事業の市主体の取り組みについて。

(2) 並行在来線等の運営について。

(3) 産業振興支援及び糸魚川版地域経済活性化プログラムの策定について。

(4) 観光イノベーション時代への対応策について。

(5) 新エネルギービジョン策定の目途と実行について。

(6) 地域情報化の今後の調査、検討について。

(7) 都市部との連携による高齢者福祉施設のモデル化の取り組みについて。

3、スポーツ施設等の充実と交流人口拡大について伺います。

(1) 能生体育館の改築について。

(2) 美山球場及び能生球場の整備・改修について。

(3) 室内練習場の新築及び既存施設の充実について。

(4) 海・空・山・川を活かすスポーツの充実について。

(5) 子どもたちの運脳神経の育成策について。

(6) 高齢者の健康と生きがいをコーディネートする取り組みについて。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、大野区との協議の結果、12月17日に説明会を開催する予定であります。再生事業は、今後、大野区と協議をして進めてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、先進事例の情報を得ることは大変重要であることと認識いたしております。検討してまいります。

3点目につきましては、現在国内で稼働しているプラントがないことから、本市での導入につきましては考えておりません。

4点目につきましては、公共工事での利用や民間事業者への販売を行っており、土地の利活用について、今のところ考えておりません。

2番目の1点目につきましては、新幹線駅の1階部分の活用は市の新たな玄関口として、ジオパークを中心とした観光案内及び情報発信スペースのほか、キハ52の展示や鉄道模型のジオラマ等を設置するなど、鉄道とジオパークをテーマとした施設を計画いたしております。

また、アーケードは地元商店街が事業主体となって、再構築に向け鋭意努力をいただいております。市といたしましても再構築に向けた費用の助成や、地域商店街活性化計画の作成支援を商工会議所と連携をいたしております。

このほか駅周辺整備事業は、南北の駅前広場、パーク・アンド・ライド駐車場、駐輪場の整備等を計画いたしております。

2点目につきましては、現段階では県、会社から、経営計画や運行計画は示されてございません。

3点目につきましては、本市の産業振興の方向性は、総合計画に位置づけられており、現段階では新たな地域経済活性化プログラムの策定は考えておりません。

4点目につきましては、ジオパークの世界認定をきっかけといたしまして、市内の各種団体において自発的な取り組みが行われてきており、今後も官民の連携を深めてまいりたいと考えております。

5点目につきましては、25年度中に策定し、計画的に実施してまいりたいと考えております。

6点目につきましては、ツイッター、ユーチューブ等のソーシャルメディアの活用、充実を図るとともに、スマートフォンの利活用等も検討してまいります。

7点目につきましては、厚生労働省において検討が進められており、その情報収集に努めております。

3番目のスポーツ施設等の充実と交流人口拡大のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

おはようございます。

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

3番目の1点目につきましては、斉藤議員のご質問にお答えしたとおりであります。

2点目につきましては、本年度、美山球場の内野グラウンドの大規模改修を行っております。両球場とも、今後も必要な修繕を計画的に行ってまいります。

3点目につきましては、室内練習場の新築は計画いたしておりませんが、既存施設の充実については、必要な修繕や改修を実施してまいります。

4点目につきましては、関係する団体との連携により海洋スポーツ普及大会やクライミング講習等を行っております。

5点目につきましては、大学の教授が提唱されており、勉強も運動もできる脳の発達方法であると聞いております。市でも心と体のバランスのよい発達のために、生活リズム改善事業の中で取り組んでおります。

6点目につきましては、いきいきスポーツ教室、地区運動教室、介護予防事業等を通じて、高齢者が楽しみながら健康づくりをしていただく機会の提供を行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

先ほども1回目でおっしゃっていただきました一般廃棄物最終処分場再生事業、日本環境衛生センターから説明を受けて、まず平成16年、適正化工事の申請を、法的に16年はちょうど変わり目だったと思うんですが、この工事の申請をなぜ逃したか、その理由ですね。昭和50年度に完成して、平成3年に管理型になったと思うんですが、その16年、なぜ、理由ですよ、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

平成16年までの適正化というものに対して、市としてはその事業そのものに認識というものがなかったというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

これがやっぱり決め手なんですよね。ここで交付金を受けて適正化工事をやっていけば、きょう

に至らなかったかと思えます。

その辺をちょっと認識してもらって、再生事業をいつ日本環境衛生センターから聞いたのか。おそらく平成21年4月ごろだと思うんですが、いつごろ聞いて、そのときの協議内容はどうだったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

平成21年の、正確でないんですが、7月ごろ会議の中で聞いたというふうに認識しております。それには試算等はされておりましたが、再生事業を行うには地すべり対策から始まって膨大な費用がかかると。幾らかかるとまでは聞いておりましたが、膨大な費用がかかるということをお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それを聞いていて、なぜ再生のこの事業、方法を大野区住民や市議会に言わなかったのか、説明がなかったのか。これおかしいんです、隠した理由。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

大野地区と処分場についての今後の対策をいろんな協議をしてきたわけです。その中で専門家の日環センターの意見を聞く中で進めてきたわけでありまして、その中で今の持ち出したりして安定化をするというような話も出たわけですが、そのときにも大変説明があったわけですが、非常に莫大な金、あるいは時間がかかるということで、それらを説明する中では日環センターが、今現在、安定化の工事が一番適正だろうということでの話をする中で、自然の中で今の安定化工事に進んだということで理解をしております。

ですから、これとこれを比較して、どちらにしようかという協議には至らなかった。そのときには安定化工事をまずすることから進めましょうということで、自然の中で大野地区との話が決まったというふうに理解をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

誰も聞いてないんですね。日環と市で確認して、誰にも言うてない。それで突然、この平成24年度7月ごろ、情報を得た大野区から我が特別委員会に公表されたと、この空間は何なんだと。

出てきたらわかりますよ、この279億円、そら莫大もない金。そのときにやってれば、21年度にやってれば、何か解決ができたんじゃないですか。そこがやっぱりおかしいんです。それずっと言っていれば、時間がかかりますので。

地すべりが起こる、治山ダムが劣化、浸出水量が多い、構造が適正でない。これも16年度に適正化工事やってれば、再整備ができたんじゃないですか。その21年度にわかった時点で、そのときも工事やってなかったでしょう。あらかじめやってる手だてがあったんじゃないですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど副市長、また課長の答弁にもありましたように、そういったところは本当に抜かっておった点であったと思っておりますし、これはやはりそのときの1市2町の対応で進めてきたということで、その辺が一番やはり抜けてた事柄であったろうと我々は思うわけでございまして、その後我々が知り得た中で、当然、もう早急にいろんなことをしなくちゃいけない中で、日環センターのアドバイスを聞きながら進めてまいったのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

この再生が全国的に行われているのは、平成11年に行われて、今は十五、六カ所あるというふう聞いてますし、大野地区は特別なやっぱり急傾斜で急勾配で地すべりもある、それはわかります。だけど、そこでやってきたんです。

それと、その中身ですよ、ごみの中身、一般廃棄物の中身、これは分析調査したんですか。日環の話の聞くと、ここは難しい。大変ガスも出る、工事も危険だ、その辺のごみの中身、全国的に見て、この中身はどんな分析しておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

安定型処分場ではございますが、一般の安定型処分場に比べまして種々雑多なものが、処分されておるといふふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

全国的には、私は珍しいと思いますよ、中身。亀山、指宿、諫早、いろいろ聞いたり見ましたけど、やっぱりこんなひどいところはないと思います。だからこそ、持っていけと言われるんですよ。

なかなかいろいろな細菌類とか、いろいろ持ち出したらリスクがあるということも調査、分析されておるといことで、掘り起こしのリスクですよ、この辺をどう考えているか、調査、分析、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先日の日環センターの説明によりますと、やはり非常に膨大な量があることから、非常に長い時間かかるということで、いわゆる今現在、安定化の方向に向いているのが、再度、活性化になっていくということで、周囲への環境の影響が、非常に心配であるというようなことが言われております。

それから今の埋立地につきましては、当時の最初につくったところの基準というものは満たしておるけれども、今新たに再生処理をしようとする、今の処分場の外に今の基準のものを新たにつくる必要がある。そのためには、やはりそういう場所も確保しなければならないし、先ほどから出ておりますように多額の費用もかかると。

それから、あわせて利点としては、今掘った場所を全部掘り返せば、また長い程度、年月が使用できるというようなことで、利点もあるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

掘り起こしの際に、いろいろな形で自然治癒力を生かして、そのままにしといてやっているのが、全国的には99%とこの前聞きましたけど、1%は今も全国的に十五、六カ所やってるんですね。やっぱりその辺も含めて判断せないかんと思うんですが、その中で立地条件、地下水、発生ガス、それで臭気と排水、いろいろな条件がありますが、今言われた外に出さんならん、そのままだと構造基準に合っていない。この構造基準に適合は、適正化事業を終わればオーケーなのか、構造安定のめどはどのぐらい必要なんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

再生化事業については、先般、議会等にも説明し、地元にも当然説明してるわけですから、やはり二百数十億円の金がかかるということでは、慎重にそれらを分析をしたり、いろんな角度から調査して方向を決めたいということでもありますので、やはり今も議員からいろいろなことを言われておりますが、しっかりそこら辺も分析をしなきゃまずだめだというふうに思ってますので、そんなことから前回の委員会の中でも少し時間をもらって、行政としてもしっかりそこら辺のまとめをし

たいし、地元にもそこら辺は話をしていきたいということで話をさせてもらっておるわけですので、今すぐ、これはどう、これはどうというところでの答えは、やっぱりできないところもありますので、そこら辺はもう少し時間をいただきたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今言われた質問がわからんですか。今、適正化工事をやれば、適合されるんじゃないんですか。安定化工事すれば、適合されるんじゃないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

今行っている適正化事業を行えば、法的には安定処分場ということで廃止基準に合致しております。廃止をするまでには10年から15年かかるんじゃないかというふうに、日本環境衛生センターから聞いているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

適正化工事、安定化工事を終わって完成して10年で廃止ができる。そうではなく、再生事業はいつ、完成すれば再生事業を行えるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、適正化工事を進める中でやると今の予定なんですが、今、この再生事業というものも提案いただいたわけございまして、それについて今調査をしていかなければわからない部分でございますので、それは本当にある程度調査費をかけてやったかということ、大ざっぱな調査の中で出てくるわけございまして、その辺を今提案いただいとるわけございまして、それをみんなでまた調査、検討していこうということでございまして、今、再生事業につきましては、やはりちょっと具体的な答えというのは、まだこれからだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

再生事業を全国で15、16カ所やってるんですよ。それはやっぱり適正な構造基準や構造が安

定してる、それにのっつとるからそのままなんでしょう。不適合だからこそ違うところへ場所を移して、またやらないかん、それは莫大もない金。それを減らすためには適正化事業を行えば、そのまま持ち出せる、外へ出さなくて。終われば、すぐ再生の認可を得られるんじゃないですか。そこを調べてないんですか、全国的にその辺の今の亀山や指宿、巻、調査してきたでしょう。何をやってきたんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど再生事業を実際に行って、今まで埋めたところに、また掘り返して処理をして、残渣等を埋めるところができるものは、今の基準に合っている事業所でございます。大野区については、当時はよかったんですが、今の基準に合っていないわけです。したがって、再生事業をする場合は、今の場所以外のところで新たな基準を満たすような施設をつくって、再生処分をしなければならないわけです。

したがって、そういう先ほどから申し上げますように場所だとか、あるいは今現在埋めている、せっかく安定化の方向に向かっているものが再度活性化する、あるいは最後には大きなお金がかかると。こういった課題がありますことから、今後やはりきちっと調査をしないと、今の再生事業というのは大野地区の場合、もしする場合、どのように進めるかというのは、まだ十分研究をしていかなきゃならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

どこが悪いのか。先ほども言うた構造の安定のめどで安定化工事をして、完了して10年。再生っていつやってもいいのか、その辺をやっぱり日環とキャッチボールしたんでないんですか。

その辺がちょっとわかりませんが、いろいろな形で今お聞きすると、あまり調査、分析してないんで突っ込みませんが、その辺の判断を早急にやっていただいて、17日にいい対応ができるようお願いしたいと思います。

それと先ほども言いましたけど、7月31日に我が特別委員会と大野地区懇談会の中で再生が提案された。8月として、この12月10日、130日間あったんですよ、130日間。今まで日環に任せて出てきた。何でキャッチボールできてないんですか、今まで回答できてない。大野区へ7月4日以来、行ってないんでないですか。これがおかしいんですよ。やっぱり誠心誠意、心を伝えてくださいよ、地元の人方に、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先ほど課長も説明しましたように、再生事業というのは、やはり日本環境衛生センターは、他の

地域でも十分やっております。ただ、そういう中で、今、大野地域については、当初、概略的なことで私ども市は受けております。しかしながら、大野区から正式な要望というものがありましたことから、その調査に私どもはしっかりとした調査内容が必要だということで、概略的な調査でありましたけれども、先月の11月まで、どうしても調査時間がかかったということでもあります。ただ、大野地区とのコミュニケーションのとり方というのには、多少問題があったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこがやっぱりおかしいんですよ。日本環境衛生センターが概略のは持ってきました。あれじゃどこかのをまねして、ただ来ただけです。だからこそ15カ所、16カ所を見て、ここの大野地区にはどう当てはめたらいいか、そのことを分析調査やってないんですか。17日はどういう気で行くんですか。提案がなければ大野の方々なんて、何しに来たってなりますよ。こんちはさよならでないんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

私はもうちょっとやはりその辺を調査させていただきたいし、概略で出てきた部分についても、やはりその数字というものを検討しなくちゃいけないわけでございますので、そういったことを提案いただいたわけでございますので、それについてはやはり受けとめさせていただく中で、みんなで検討させていただきたいと。また、大野区の皆様方もそういった中でもって、いろいろと一体となって、また、それに対して検討させていただきたいようお願いを申し上げていく、17日にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私も巻も、我々特別委員会で、中濃、今提案した亀山、亀山も大規模で再生、指宿は溶融炉でなく、普通のストーカ炉かどうかわかりませんがやると。かなりすばらしいことをやってるんですよ。そこで大野区に提案、こうしたいんですけどの提案だと思っんですわ。検討でないと思っんですわ、17日。私はちょっとおかしくなるんでないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから、私はその再生事業は全国でやってないとか、それが間違っるとかと言っただけで
 ございません。当然それは可能であるからご提案いただいたし、いいものであるということの中で
 のご提案でございまして、それをじゃあ我々のところで取り組んでいけるかということを検討、
 調査しなくちゃいけないわけでございますので、検討と言ったのは検討だけでなく、調査も当然
 含まれるわけでありまして。そういったことでお示した数字、我々は日環センターに早急に、我々
 ではちょっとわからないので、そういった大枠で、今捉えていただいたわけでございますので、そ
 ういったものを本格的に、それを調査検討しなくちゃいけないだろうということで、大野区の皆様
 方とともに、それを詰めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今検討、調査、本格的に大野区とともにやると。これはいつをめどに、これはそこまでやれば提
 案になると思うんだが、いつをめどに提案をお持ちするか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今はまだ、私どもは先ほどから言いましたように、課題が非常に大きなものであります。それで、
 今、日環に調査してもらったものにつきましても、まだ2カ月ちょっとで概略の検討結果が出てき
 たわけです。これをやはり詰めるには、まだ相当時間がかかると思っています。それで今の時点で、
 いつまでという期日は、まだちょっとつけられない状況です。

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員の質問の途中でありますが、昼食時限のため暫時休憩とし、再開を13時といたしま
 す。

午後0時02分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

吉岡部長では、まだ検討、調査、本格的に大野とともにやっていくのは未定だということで、こ

のシミュレーション、ごみ処理施設、リサイクルセンター、廃棄物処分場、一体的な大野区から要望が出てるんですが、あり方検討委員会では論議がされてなかったんですが、このあり方検討委員会以降、3月までに施設基本構想をまとめるということなんですが、この策定の中で議論するのかがどうかも含めて、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

あり方検討委員会の報告を受けまして、基本構想については、その後、大野区、それから議会等とも諮る中で、基本構想を決めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

一体的に考えるということによろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

一体として考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ3月をめどに構想を策定するという事も出ておりますので。

それともう1点、今、地域振興係で地区担当とかありますし、地域振興プランの中で大野区のビジョンも含めた中での検討というのは、今ビジョンからプランでしたか、どうなったのか、今現状をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

大野地区におけます地域づくりプランにつきましては、これまで説明会で役員の皆さん、あるいはまた違った角度で説明をさせていただいておりますけれども、今現在、まだお取り組みはいただいておりますけれども、趣旨につきましてはご理解いただいております。意向につきましても、策定したい旨の意向もお聞きしておりますけれども、今現在はまだ着手していませんので、もしまた地域づくりプランの着手ということになりますと、地域全体の見直しという部分も、地域課題を洗い出すという部分もありますので、そういった中で、また課題が明らかにされていくという内容に

なるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

KDVも、今、富山市のエコタウンの中に入って、試験的にはまだだと思んですが、世界的にはかなりやっていると。富山市がいち早くその辺も含めてやっているとすることもございますし、ぜひ一般廃棄物最終処分場の先進地も含めた中で早期に、本当にスピードの時代だと思いで、ぜひその辺もやっていただきたいと思ひますし。

下のほうの新幹線に係して、新エネルギーの係もございすが、私の個人的な案でございすが、その大野の粘土山も含めて、その辺に木質もバイオマスも含めた中で、そこにKDVも含めて、ごみ処理施設をその辺に設置しながら、再生をベルトコンベヤーで送りながら運搬費もなくできるような形と、大野用水で下大野川がございすが、小水力発電も含めて調査。きょう聞くと、40センチぐらい雪が降ってるといふことになれば雪室も考えた中で、ぜひその辺も地域振興ビジョンですか、プランも含めた中で、大野区をやっぱり全体見た中で、最適化を図る必要があるんではないかと思ひますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に壮大なスケールになってくるわけでございしますので、そういうやはり自然を生かしたり、また、資源をどのように活用するかということが大切だろうと思ひわけでございしますので、そういったこと。土地があるわけでありますので、描き方は、いろんなことを描けるんだらうと思ひんですが、埋設土砂もあることでありますので、真っ白な土地ではない状況であります。そういったところも踏まえながら、当然、いろんな描き方をしなくちゃいけないだらうと思ひわけであります。

今の適正化事業、または再生といふのを今検討してるわけでございしますので、そういったものとあわせながら。当然、1つだけでは捉えられない部分もあるのかもしれない。そういった可能性、そういった調査検討をさせていただきたいと思ひますし、また、そういう形になるんだらうと思ひしております。1カ所だけの趣旨といふのは、なかなか難しい部分でございしますので、それは具体的に、可能性はあるといふことでございまして、じゃあ今すぐ拳がっているかといふと、まだそこまでは拳がってない状態でございまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひトータル的な考えでやっていただきたい。

それと一般廃棄物の埋め立てと、プラス金曜日に田中議員からもありました芸術ですね、アート

を一緒につけた札幌のモエレ沼公園というのが芸術の森でやっています。ジオパークも含めて、大野をどうすればいいかというのを物語をつくってやっていただきたい。いろいろな形で重ねていって、大野区から40年、50年のスパンで考えた中での子や孫まで、あそこで受け入れていってもらえるような、本当に心からやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

具体的なものは別といたしまして、私はやはりこの問題については、きっちりと対応していきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ17日も含めて、早期にスピードをもって対応していただきたいと思っております。

今、小水力発電や雪室を含めて、これは大野区だけでないんです、ほかの糸魚川市全体のことも25年にプランをつくる、これはちょっと遅いんじゃないですかね。本当に平成15年に新エネルギービジョンをつくって、それをもとに、もう実行の段階だと思っております。小さいところを調査して、いろいろな形で取り組んで、行政だけでなく、民間も中に入れてやっていただきたいと思うんですが。その中で地熱発電、これも9月のときに蓮華温泉等も可能だと、今後調査していくということだったんですが、その辺は今どうなっておるのでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

蓮華温泉の付近で、地熱発電については民間で、今、会社を立ち上げて調査をしておるという段階でございます。その辺の情報収集なり等は、今のところ企業と一緒にやっているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

あんまり市が中に入っていないようなこともお聞きすることもあるので、ぜひ引っ張って行ってください。主は民間でいいですけど、やっぱりリードしていくのは、コーディネートしていくのは、私は市、県だと思っております、その辺を含めて。

それと三重県の伊賀市に視察に行かさせもらったんですが、違うところで、田んぼの上にソーラーパネルを張ってやっているとありましたし、畑の上にソーラーパネルをつくって試験的にも

やって、農地法にはかからんということで、やっぱり先進地的なこともやってる。農家にもかなりの収入もあるということを知りてんですが、そういう取り組みを含めて太陽光発電の屋根貸し、今、県でやってますよね、屋根を貸して、それで利益をやってると。そういうような取り組みは、糸魚川市ではできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

公共施設の屋根貸しについては、今、県のほうが主体となって各市町村に、その公共施設についてどのくらいできるのか、一応県がまとめて屋根貸しを行うという事業を立ち上げるということで、今、各市町村と協議を行ってる最中でございます。それには一応、糸魚川市も乗っておるということで、今のとこの施設まで該当になるのか、また、企業がどこまで対象とするのかというのは不明確でございますが、一応その事業については、糸魚川市も参画しているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺も具体的に常任委員会で言うていただきたいと、こう思いますし、やっぱり実行に移してください。プランやビジョンだと言うとる間はないんですわ、行動ですよ。ぜひお願いしたいと思えますし、燕市でもやってます、橋渡し。

次に移らさせていただきますが、並行在来線でございますが、10月30日、県議会の総合交通防災対策特別委員会が開催されまして、その中で県は30年間で780億円の中で、1月に発表されるということなんです、その中で信越本線に対する貨物列車走行可能な設備維持への支援、もう信越本線が貨物列車走行可能なようなことをやっていく、新聞紙上に載っておるんですが、特別豪雪地域における豪雪対策への支援、県の特別委員会でもう発表されとるんですよね。その辺の情報というのはいないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

780億円の支援につきましては、これはことしの2月の時点で、国と県で780億円の中で支援していくというのが決まっておりますが、その中身については、今年中に詳細を明らかにすることで、県と国で毎月いろんなところで協議を詰めております。

そういう中で、北陸本線のほうには国の支援としては、線路使用料といいますか、貨物調整金という大きな支援策があるんでありますが、信越本線は今のところ貨物は通っておりません。これは将来の3・11の交通網の中で、仮にそうなった場合でも対処できるようなというような、これは本当にそうなのか、名目なのか、その辺が780億円の支援がはっきりしないとわかりませんが、そういう形もあるということで、総体的な支援の1つということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私が心配しているのは、信越本線直行特急、信越本線を経由して柏崎を含めて新潟へ行くフリーゲージ、これに重なって整備をしていく構想ではないかと私は危惧するんです。22年度に発表され、もう2年経過してますが、上越駅が30億円かけてそれに乗って整備した。そうなってくればメイン、接続駅を上越に前提とした考え方で県は動いているんでないですか。東日本、JR東も含めて、私はそう思うんですわ。そこまでやっぱり考えてないですか、県知事は国との折衝、そこまで調査、分析してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

フリーゲージについては、上越直行特急の同盟会の中でも検討されておりますが、これにつきましても、フリーゲージ1つ持つてくるにしても500億円とか600億円とか、今、試算の中では、そういうふうに言われております。

これは新潟県知事が、フリーゲージというのは特にこだわっておりますが、今のところ並行在と新幹線の中では、糸魚川、上越ともに関西方面へのターミナル駅。特に糸魚川については、一番西側にあるわけでございますから、ここをターミナルとして関西方面との連携をするということでございますので、上越駅だけ特化ということは私どもも聞いておりませんし、お互いに協働し合っていくべきものではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

21日に特別委員会もございまして、ぜひ富山の動きは、もう並行在来線110億円で買うということも出ておりますし、私はやっぱり東日本とくつつくんでは、JR西がこういう形で富山県で発表して金額を見ているんなら、西は決まってるんじゃないですか、ある程度、県と交渉して、その辺の情報はないんですか。何か隠すのではなく、やっぱり発表してもらいたいんですが、やっぱり市議会から新潟県へ行くか、行政から行くか、それから来てもらうか、やっぱり早目に対応していただきたいんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今県議会の泉田知事の所信表明の中では、1月中に基本的には経営基本計画案を公表して、話し合いに入るといってございまして、先ほど申しました780億円の支援の中身とともに説明

を受けて、私どももそれを聞いて、議会や市民に説明する機会を持っていきたいと、こういうふう
に思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこがやっぱり糸魚川・直江津間が本当に空白地帯になる可能性が、1月に発表されて、もう決
まったわ、何も動かせないと、そこがやっぱりおかしくなってくると思うんですよ。やっぱり取締
役で入ってる副市長、その辺をお伺いしとると思うんですが、その辺はやっぱり富山との結びつき、
必要だと思うんですわ、糸魚川は。その辺、特に朝日町を含めて小谷村と白馬村を含めて連携とい
うのは、本当に密にしてもらいたいと思うし、富山県との結びつき、やっとなと思うんですが、も
っと特にやってもらわんと、離されれば、私はそこから脱退してまで富山へつくぐらいの覚悟が必
要だと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

経営計画等については、先ほど課長が言ったとおりの状況であります、やはり私も取締役とい
う立場で、これまでも取締役会の中では市の実情を訴えてきております。

9月に発表するというものが、ずるずるおくられているわけですので、やはりそこら辺はしっかり
県から早く提示をしていただいて、あるいは会社からしっかり提示をしていただいて、まず糸魚川
市、糸魚川市議会との話をしてから、最終、決まるものというふうに思っていますので、そこら辺
をしっかりと、早目に早く示していただきたいということは、これまでも話をしております。

それから隣県、あるいは富山県、あるいは小谷のほうとの大糸線の関係につきましても、議会の
皆さんからも積極的に交流、あるいは意見交換をさせていただいておりますし、私らにしても糸魚
川駅の利点というのは、大糸線があったり、あるいは富山、金沢のほうから新潟へ行く利便性から
考えると、当然、糸魚川が拠点になるわけですので、そのことを県のほうにも話をしております。
ですから、やはり全体の中で市民を挙げて糸魚川の利点をしっかりと訴えながら、一方的に県から決
められないように、取り組んでまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそうならないように早目に、1月中に出される前にもっと何か行動を起こしていただきたい
ものだと思いますし、交代駅の設定で、糸魚川になるか上越になるかで、もう新幹線の停車本数も
大きくかわるそうですね。その交代駅、JR西と東の本当の接続ですね、接点を本当に上越は死
に物狂いですよ、観光の面も含めて。

この前の観光イノベーション、この中にありますが、あの中でもすごい戦略をとってやってるし、

どんどん乗客が、乗り降りする人がおらなければ、糸魚川は通過駅ですよ。そこもやっぱり考えていかんことには、観光だけでなく、いろいろと産業振興を含めてトータル的な考えを持っていかないとだめだと思うんです。ぜひ市長、その辺でやっぱり経済活性化も含めて、どの辺まで考えているでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は一番やはり新潟へ行く乗りかえ駅は糸魚川にするべきだという基本といいましょうか、考え方は変わりませんし、それがやはり一番いいわけですので、我々といたしましては、それを要望しておりますし、また、これからもしていかなくちゃいけないと思っております。

それと780億円は全然我々はわからないわけでございますので、しっかりそういったものがどういう形で細部にわたって振り分けていくのか、また、どういう形で組み立てていくかというのは、なかなか我々お願いしとるんですが、明確になっておりません。そういうものは我々に提示していただかなければわからないわけでございます、600億円なのか、780億円か。780億円になったというのは、どういう形になったのかというのが皆目わからない中で、我々はなかなか、やはり具体的なところに入っていけないところが実情ですし、また、市民の皆様方にも、報告できる状況にはなっておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ小川県議会議長もおるんで、その辺も含めて情報をやっぱり得てくださいよ。議長なんですから、その辺もお願いしたいと思っておりますし。

次の1階部分の活用ですよ。観光協会からも出てるように、この辺というのは要望を通して、どういう考えなのかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

新幹線駅1階部分の活用については、さきの特別委員会で、これまでいろんな例えばフリースペースとかというような形の中から、基本的には、特にジオを生かした形で、ジオと鉄道をテーマにしたものを打ち出していきたいということで計画を進めさせていただきました。

それ以外に、ジオパーク情報発信コーナー、それからキハの展示については変わりありませんが、そういうものを含めた中で、糸魚川市としての特異性を打ち出していきたいというふうに思っております。

また、観光協会等のほうも担当課のほうに、そういう構想なり、要望書が出ているというふうに

お聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

これも本当に特別委員会に初めて出てきたものなんで、21日に特別委員会もあるんで、この辺ももうちょっと議論していただきたいと、こう思っておりますし。

アーケードのほうですね、斉藤議員にありましたが、支柱2本ではなく支柱1本のほうでやると言っとったんですが、その辺の金額ですね、国の補助金、市の補助金、地元の負担金は何戸で、どれだけの割合なんか教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

組合理事の皆さんが組合員の皆さんに、11月21日と12月4日に説明会を開かせていただきました。その中では工法の説明と、それから商店街活性化計画に取り組むということの説明にとどまっておりますので、事業費等はまだお聞きしてない段階であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺も確定というか、その辺も含めてやっていただきたいのと、もう詳細設計に入る段階なんで、活性化計画もございしますが、やっぱりもっと本当に市も中に入って、市が主体ぐらいにリードして、コーディネート、プロデューサー的なことをやってもらいたいし、応分の負担はやってもらわなければならないですけど、その辺の調整をぜひやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やっと今、1つの方向性に動き始めてきたわけでございますので、これからそういうところが詰まっていくと思いますし、行政もやはりそういったところで本腰を入れられるとっております。なかなかそういったところに、まだなっていかなかったのが実情でございますし、やはりようやく一体となって進めていく状況になってきたのだらうと思っております。それによって、いろんなこれから支援対策もまた出てくるのだらうと思っておりますので、その中で詰めさせていただきたいし、施工なり、また具体的にしなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います

もう1点、能生体育館でございますが、妙高高原体育館が今ちょうど高床式で、3階建てで、下が駐車場で、2階がバスケットボールコート2面で、3階が多目的スペース、それで11億円だそうです。

齊藤議員も高澤議員も田中議員も言うと思ったんですが、スポーツで合宿誘致できるような、そして全国大会もできるような。文化も含めて、本当に市民会館みたいなステージをつくれじゃないですけど、やっぱりその辺も含めて、トータル的な体育館を望んでいる方が多数いらっしゃると思います。ぜひその辺も含めてお考えいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

齊藤議員のご質問にもお答えいたしました。能生体育館につきましては改築ということで、体育館の機能を基本として改築をする。それから附属の設備、附帯設備につきましても、これは懇談会、あるいは地域審議会、いろいろのご意見を多方面からいただいております。こちらにつきましても、できるもの、できないもの、これから実施設計を組んでまいりますので、体育館を基本としながら、どこまで取り込めるか検討をしてみたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

検討、検討というのは何回も聞くんですが、ぜひ皆さんの声。能生の地区の体育館だけではないんです、市全体の体育館なんです。総体が今修繕の方向になっているということなんで、やっぱり能生体育館が今度はメインぐらいの気持ちで、文化、産業フェアもできる、いろいろな形で核になるような体育館にしていきたいと思いますと思ひまして、一般質問とさせていただきます。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、池田達夫議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。〔16番 池田達夫君登壇〕

16番（池田達夫君）

日本共産党市議団の池田達夫です。

通告書に基づき4点にわたって質問をいたします。

1、就学援助についてです。

若い世代、子育て世代の貧困化が進行しております。就学援助を必要としている人たちが増えている現状を踏まえて、対象となる世帯がきちんと就学援助を受けられることができるような改善が必要となっております。同時に、就学援助の拡大も求められております。以下の点について、お聞きをいたします。

- (1) 申請関係でさらなる改善は必要はないのか。
- (2) 国の追加にともなう支給項目の拡大の検討はされているのか。
- (3) 市独自の拡充の必要性はないのか。

2 柵口温泉センターについて。

柵口温泉センターは、地域住民の健康保持の施設、団らんの場としての役割を担ってきました。今後、温泉センターがどのような形態で、より地域に愛される施設として維持・存続されていくのか、地域住民・利用者の声に基づいた取り組みをどう行っていくのかについて、お聞きをいたします。

- (1) 温泉センターの現状と今後の取り組み。
- (2) 権現荘との関係・関連をどう考えていくのか。
- (3) 住民・利用者の声をどうつかんでいるのか。
- (4) 上南地区振興プランの取り組みの現状。

3、並行在来線の問題についてです。

「えちごトキめき鉄道株式会社」の運行計画の発表が遅れておりますが、どのような現状にあるのでしょうか。またこの間、「地域の会連絡会」による住民・利用者へのアンケート調査が実施されましたが、ここでの声をどう捉えているのか、どう応えていくのか。

- (1) 「えちごトキめき鉄道株式会社」の運行計画は、どのように検討されているのか。
- (2) 「地域の会連絡会」のアンケート調査をどう捉えているのか。
- (3) アンケート調査に表れた住民・利用者の要望にどう応えていくのか。

4、オスプレイ（垂直離着陸輸送機）の低空飛行訓練についてです。

9月議会以降、どのような動きがあったのか。12月上旬からの低空飛行訓練の実施も報道されております。糸魚川市として、今後このオスプレイ問題に、「平和都市宣言」の自治体として、どのように対応していくのでしょうか。以下について、お聞きします。

- (1) 9月議会以降の動き。国・県からの「低空飛行訓練」の連絡などについて。
- (2) ルート周辺の自治体との連携は進んでいるのか。
- (3) 市民の安全を守る立場から、飛行訓練の中止を求めるべきではないのか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の就学資金援助のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいいたします。

2 番目の 1 点目につきましては、温泉センターは地域の共同浴場として、主に地域住民からご利用いただいております。今後は、入浴機能を権現荘に集約する方向で検討を進めてまいりたいと考えております。

2 点目につきましては、権現荘も温泉センターと同様の入浴機能を有していることから、機能の一本化が可能と考えております。

3 点目につきましては、日々の接客の中で、運営上の改善点やアイデアをなどをお聞きするよう努めております。

4 点目の上南地区の地域づくりプランにつきましては、地域づくり協議会を設立し、地域の自然、生活、産業のほか、柵口温泉街や観光施設を活用した地域の活性化について、精力的に話し合いを進めていただいております。

3 番目の 1 点目につきましては、昨年、会社が発表いたしました運行の課題と方向性をもとに、県と会社で調整をいたしておるところであります。

2 点目につきましては、市民の声の 1 つとして捉えております。

3 点目につきましては、安全な運行と安定した経営を確保した上で、利便性に応えていく必要があると考えております。

4 番目につきましては、国、県からの新たな情報はなく、周辺自治体との連携に向けての動きもありません。

在日米軍司令官の談話もありましたが、引き続き情報収集を行ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、2 3 年度に申請方法を改善しましたが、今後も必要に応じて改善を図ってまいります。

2 点目につきましては、現在検討を進めております。

3 点目につきましては、国の基準のほかに市独自の拡充は、今のところ考えておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16 番（池田達夫君）

1 番目の就学援助から 2 回目の質問を行っていきます。

さらなる改善、必要に応じ改善をしていく、そのとおりだと思います。

そこでお聞きしますが、確認をさせていただきますが、この申請用紙は年度初め、新学期4月に1回配布をするのでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

新年度に入りまして、全児童生徒に配布をしております。

以上です。1回だけです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

全国的には23年度の就学援助は、子どもの数が1,006万人に対して約157万人の方が、この援助を受けているそうです、15.6%になります。年々増加している傾向にあります。全県でも昨年度で18.4%ということで、全国平均よりも高い数字で推移をしております。系魚川市では9月の議会で、私、お聞きしましたが、22年度で7.61%、23年度では10.1%という数字であります。全国平均、あるいは新潟県平均からみて、まだまだ潜在的に対象者がいるということと言えるような気がいたします。

そこで、私、提案したいんですが、新学期だけではなく、例えば2学期にももう一度、同じような内容にももちろんなりますが、もう一度配布する。そこで、この制度があるということをやより徹底していく、そのようなことはいかがでしょうか、検討される価値はあると思いますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今のところ1学期の初めに、全児童生徒にお配りしておりますので、2学期で再度そういうのを配布するという今予定はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

学校の現場の先生たちへの周知の徹底という点でお聞きします。

現場の先生方は、この就学援助制度について、どれだけ認識されているのか、どれだけ徹底されているのかということで、例えば月何回いろんな機会に、学校の先生方にこの制度を教えている、そのようなことがありましたら、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

毎月、校長会というのがございますが、毎月そのようなことは行っておりませんが、年度当初のほうで、特に制度があるということなどを、校長会のほうで説明しとる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

校長先生を通じて現場の先生、つまり子どもたちと直接身近に接している先生方に、この制度というのはより徹底する、そういったこともぜひとも考えていただきたいと思います。

この就学援助と関連して、厚生労働省が9月に発表しました、全国母子世帯等調査というのがあるんだそうです。そこでは母子家庭の平均収入は291万円で、全世帯の平均658万円の44.2%にすぎない。それで生活保護の受給率は母子家庭で39.4%、これは06年の前回よりも1.5倍になったそうです。父子家庭では8%という数字が報告されております。

そこでお聞きしますが、糸魚川市内での母子家庭、あるいは父子家庭の実態、その中で生活保護を受給している数というのは、どのように把握されておりますか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

+

午後1時42分 休憩

午後1時42分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

件数につきましては、ここで持ち合わせておりませんので、確認させていただきます。

以上でございます。

議長（古畑浩一君）

池田議員にお聞きしますが、その数字がないと次の質問は。

16番（池田達夫君）

いいです、後ほどで結構です。

それでは池田議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

国の追加に伴う支給項目の拡大については、今ほど答弁がありました。検討している、検討していただきたいと思えます。今年度も終わりで、もう12月半ばです。新しい年度が始まります。例えば新しい年度に目標として間に合うように、今検討をしているんだ、結論が間もなく出るんだと、その辺の状況についてお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

現在、新年度予算に向けまして、検討しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

新年度予算に、ぜひともいい形で反映されるように検討をしていただきたいと思えます。

それから市独自の拡充の必要性ということについて、今のところそういう考えはないというお話でしたけども、例えばいろんな自治体の例なんかを見ますと、この就学援助の項目に次のようなものが、市独自の制度として拡充されているという例があるんですね。社会科の見学費、卒業記念品代、水着、水泳着の購入費、眼鏡、あるいはコンタクトレンズの購入費、算数セット、体育実技用具費などというのがあるんですね。

市独自としても、やはり今またその3つのことについて、新年度予算に向けて検討されているところですが、同時ではないにしても、段階的でも構いませんが、このような項目があるってということについては調査、調べる、検討をやがてしていく、そのようなことは考えていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

先ほど申しました国の基準に基づきます内容につきまして、今検討中ということでございます。今、議員がおっしゃられた部分につきましては、今後、また調査をしていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

ぜひとも調査。全国的には、いろんな項目の例が、先進的な例がありますので、大いにそこから学んで、検討して、この市の独自の施策として広げていきたい、そのようなことを要望いたします。

何といても、日本一の子育てを大きな目標としている糸魚川市としては、やはりこの経済的困難を抱えている家庭の子どもたちに対して安心して学校で学べる、そういう環境をやっぱりしっかりと準備していく、このことが直接的に子どもを援助することになるし、先ほど言いました日本一の子育てを大きな目標としている糸魚川市として対外的にアピール、アピールするために制度を広げるわけではありませんが、アピールしていくことになるんじゃないかと思います。

次に進みます。温泉センターについてですけれども、温泉センターの現状、今後の取り組みということですが、今の温泉センター、経営の状況、お客さんの数、あるいは修理費等、今年度もかかっているかと思います。今の時点での概略の数字等について、報告をしていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

温泉センターの利用増加策といたしまして、本年4月から温泉センターファンクラブというものを立ち上げさせていただきました。今現在10回利用いただいた方に、1回の無料という対応をするということでのファンクラブという形になっていますけれども、現在10回に達した回数券、満点の回数券の回収枚数は、11月末現在で210枚であります。

11月から第1日曜日、くじ引きデーという形でくじを引いていただいて、無料対応するという取り組みを、月1回なんですけど、ことし11月と12月に実施させていただきました。その結果といたしましては、くじを引く第1日曜日に、若干の利用者の増加が見られるという状況であります。

ただ、全体として利用者数がふえているかといいますと、昨年実績の約7割程度、8割に満たない状況ということになっています。

それで経費の面でありますけれども、昨年よりも赤字の幅がふえて出てきているというのが、今現在の状況であります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

最後に、赤字の幅がふえているというお話ですが、具体的な概略の数字で紹介していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

それと赤字の幅ということではありますが、今手元に資料があるんですが、ちょっと今探し出せませんので、この後の中でご答弁させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

権現荘との関連ということで、機能の一本化という今答弁がありました。11月14日の総務文教常任委員会で報告された権現荘の指定管理者募集要項の骨子という報告があります。その中の2番目の指定管理対象施設ということでは温泉センターは、基本的には募集対象外となっていますが、ただしということで、権現荘と一体的に運営したほうが経済的、効果的である場合は、温泉センターの管理運営を含めた事業計画を提案できるものとするというくだりがあります。質問ですが、ここで言う一体運営が、経済的、効果的である場合とは、具体的にどのような状況を考えてらよろしいのか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

先ほどは失礼いたしました。それでは、先ほどの質問のほうをさきにお答えさせていただきたいと思います。

温泉センターは、これはまだ11月はまとめ切ってませんので、10月末現在でありますけれども、収入としては約600万円ほど、支出としましては990万円ほどで、390万円ほどの赤字という形になっております。これは昨年よりも伸びていると。

今ほどのご質問でありますけれども、権現荘として施設改修、今まで地元の皆さんに、日帰り入浴機能の充実ということをお約束してあります。その関係で、権現荘本館側で日帰り入浴機能の充実という部分のコストが、あまりにもかかるといふふうに応募者の方が判断された場合には、温泉センターというものの利活用も否定はしませんという意味での表現ということで考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

今出ました権現荘の指定管理者募集要項の骨子というのを、今ほど言いましたように11月の総文で出てきました。その骨子が、さらに細かい形での募集要項の内容により発展させられていくわけですが、この募集要項が具体的な形で我々のところに出てくるのは、どれぐらいの予定、スケジュールとして考えたらよろしいのかについてお聞きをいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

10月の総務文教常任委員会で私のほうから、できれば12月に募集要項についてお示ししたいということでお話をさせていただきました。

ただ、その後、総務文教常任委員会で、真岡市のほうの視察に同行させていただきました。その中で、真岡市に同じように宿泊施設を第三セクターが指定管理で運営しているところがありまして、そこにおいて修繕費等、それから責任の持ち方、どこまで行政が改修をして、どこまでが指定管理者の改修になるか。そういう部分において、いろいろと勉強をさせていただきました。

その関係から11月の総務文教常任委員会において、その辺の細かいことを調査する必要があることから、そのスケジュールに間に合いませんということで、おわびをさせていただいたところではありますが、その調査に、やはり市としてどこまで責任を持って、権現荘の改修、どうしても行政としてやらなきゃ悪いところ、それから指定管理者側から提案をいただく範囲、その辺の切り分けを明確にしないと、なかなか募集要項はまとめ切れないということで、今現在、明確に時期は申し上げられない状況でありますけれども、もう少し時間をいただきたいというところであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

大いに検討して、いい募集要項につくり上げていただきたいと思います。

次の質問に移りますが、2011年2月に公表されましたコンサルタント会社からのリニューアル基本計画というのがございますね。この場でもいろんな話題になったんですけども、現時点では、このリニューアル基本計画、どのように考えたらよろしいのでしょうか。ソフトの面では取り入れたものがあるけども、全体のハードの部分も含めて、図面まできちんとついてきたいものだったと思いますし、収支の予想なんかも書いてありました。現時点で、どのようにこの2年前のリニューアル基本計画を考えたらよろしいのか、お聞きします。

議長（古畑浩一君）

その前に、加藤福祉事務所長より発言を求められておりますので、この際これを許します。

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

先ほどはすみませんでした。

生活保護世帯数の中で、母子家庭と父子家庭の世帯数でございますが、母子家庭が14世帯、父子家庭が2世帯となっております。

以上でございます。

議長（古畑浩一君）

次に、久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

今、議員さんのほうから話がありましたように、ソフトにつきましてはウェブ戦略、それから宣伝の充実、それから従業員教育等で大いに活用させてもらっています。ハード面につきましては、提出された計画が4億円という規模の計画でありました。今この時期に、権現荘に4億円の金をかけられるかということ、なかなかやはりそれだけの金を行政として、一般財源をつぎ込むというのは大変厳しい部分がありますので、図面は大いに参考にさせていただいて、その中から、どういう形で事業費を絞れるかという部分について、検討をさせてもらっているところであります。基本のベースということで提出いただいたものを活用する中で、リニューアルプランに生かしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

確かに3年近く前のものですが、今、事務所長が答弁のとおりで、やはりハードの面を含めて、よく人に当時の感想としては、とってもいい内容で出てきたなということで、私も周りの方にいろんな説明をして歩いて、こういう夢のある新権現荘ができるんだよと、いろいろ話をしたのを思い出しましたが、ぜひともそれをベースにつくり上げていただきたいと思います。

利用者、住民の声をどうつかんでいるかということで、どうなんだろうかね、今後また、何回か過去に説明会を開催し、そこでのいろんな提案、意見ももらって、それを実際にセンターの中に生かして、いろんな改善点がされている。先ほどもお話がありました。

どうでしょう。また日常的に、こういった住民の皆さんに集まっていただいて、いろんな提言を聞く、意見を聞く、あるいは今現状を報告する、そのようなやりとりの場というのは、私はあってもいいんじゃないかなと思うんですね。というのは、なかなか能生地域の方々、あるいは利用者の方、権現荘じゃありませんよ、温泉センターがこれからどうなるんだということで、何も情報がないという言い方はしませんけども、情報を欲しがっているんですね。そういった意味で、こういった懇談会、説明会みたいなものを開催してもいいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えします。

今、議員仰せのとおり、昨年12月になるとは思いますけども、懇談会といいますか、温泉センターの2階でさせてもらって以来、そのような取り組みをしておりません。

そのときに一応半年間、何とか利用増加策を打ってみようというお話の中で、今年、この時期までできてしまったという状況であります。その中で話のあった点が、先ほど少しお話させてもらいま

したファンクラブであったり、くじ、利用者の増加策として、少しずつ手を打たしてもらったところでもあります。

今お話のありましたやりとりという部分につきましては、権現荘のこともありますので、柵口だけじゃなくて、まち内の中でも開催に向けて検討を進めていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

紹介したいんですが、先日、能生地域の木浦地区のある方から、お話を聞く機会がありました。

平日の木浦地区から温泉センターに行き来する直通のバスを、ぜひともつくって欲しくないかなという要望でありました。能生で乗りかえるのが大変で、待ち時間で帰りは温泉で温まった体が冷えてしまうんだ、そのようなことを訴えておられました。利用者をより増加させる方策の1つとして、バスの路線の問題であります。市としても大きな年間補助金を出しております。うまくつながるような、そんなバスのルートも、きめ細かな対応の1つとして考えていただきたいなということを要望して、次の上南地区振興プランの取り組みについてであります。

協議会を設立した地域の状況を把握して、精力的にやっているという旨のお話でありましたけども、このプランの中で温泉センターは、どのような形で位置づけられているのか、あるいは位置づけられようとしているのかについて、お聞きをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

担当としては企画財政課なんですけれども、能生事務所の地域担当者がそこにかかわっている関係で、私のほうから今の件についてご答弁させていただきます。

上南地区の地域づくりプランにつきまして、今、精力的に検討していただいています。これは大変地元の住民の皆さんには、頭の下がる思いであります。

その中において今検討してますのが、生活部会ということで、生活に直接かかわる部分、それから産業部会ということで、何とか地域ビジネスにつながる部分がないかというふうなことで協議をいただいています。その中に、今ご質問のありました温泉センター等、市の施設にかかわる部分については、具体的に検討されている状況にはございません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

検討されていないということですが、それはわかりましたけども、大いに話題にしてほしいんですが、じゃあ次の上南地区の皆さんの声では、この温泉センターの将来については、どういう声が多いですかという質問は成り立ちませんね。何かほかのルートで、どういう傾向にあるんだという

ところ、大まかなところで結構ですが、紹介をしていただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

今の地域づくりプランの関係で、上南地区の区長連絡協議会とたびたびお話をさせてもらうことがあります。その中では、柵口温泉センターのお話も出ますし、権現荘のお話も話題になります。そのときには一応、基本的なスタンス、先ほど市長のほうから答弁させていただきました温泉センターの入浴機能については、権現荘に統合させていただきたいというような説明をさせてもらっております。その辺に対して、ご協議いただいている中では特別、今、私のお話した統一したいということについて、特段のご意見を伺うことはございません。私のほうとしてつかめるところは、そのような状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

わかりました、現状は。

ここ3年ばかり、この温泉センターをめぐる慌ただし動きと言っていると思うんですが、地域住民、利用者は大きな不安とともに、大きな関心を持って見守っているのが、この温泉センターであると思います。

先ほど言いましたように、節目、節目でやはり住民の意見を聞く、あるいは住民に報告する、説明をする、そういった場っていうのはやっぱりぜひとも、今回、私、この質問を準備する中でも、そのような声、多くを聞きました。それを要望いたします。

やっぱり新しい時代に合った温泉センター、あるいは権現荘も含めて、地域のニーズに合ったものをしていかなきゃなりません。そのためにも市としても全力を尽くして、その要請に応えるようにしていただきたいと思います。このことを申し上げまして、3番目の並行在来線の問題に入ります。

今回の議会の一般質問の中でも、この運行計画をどう検討されているかということで、いろいろ話がありました。先ほどの五十嵐議員の話の中でもおくれにおくれで、そしていろんなお金の問題を含めて検討されていて、1月には公表できる段階にやってきたんだと、そういう段階にあるんだというお話がありました。

9月が秋になり、秋がまた1月になり、12月もきょう10日です。年末年始の忙しい中で1月に公表されるというのは、これはそのように捉えてよろしいのでしょうか。再確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

言葉のままの1月に公表されるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

地域の会連絡会のアンケートについて、先ほどの市長答弁、市民の声の1つとして捉えているんだというお話がありました。

ご存じのようにこのアンケート、地域の会連絡会、これは上越地域3市の市民団体に構成されているもので、この地元の糸魚川市の大系線・北陸線を守る会も構成メンバーであります。7月から8月にかけて、5,000部のアンケート用紙を配布し、約1,500の回答、意見をいただいた。回収率は約30%になるんでしょうか。これを1つの声として捉えているということですが、もう少し突っ込んだ形で、どのような形での分析をされているのか、もう少し具体的な形で紹介していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

このアンケートにつきましては、当市のほうには大系線・北陸線を守る会の代表が9月27日にみえられて、示されたものであります。特にうちのほうが、どうこうするというアンケートではありませんが、基本的には内容のほうも説明を受けました。

そういう中では、そういう会の方が進めてきたアンケートの1つとして、取り組みには敬意を表しますが、こういう聞き方が、例えば「運賃を上げないほうがいい」「切符はどこでも買えるほうがいい」、それから「乗り継ぎは」というふうに聞かれると、これは私でもそういうふうな答えになるのかなというふうに思っておりますし、また、ランダムなアンケートとはお聞きしておりますが、回答者の9割以上が、40歳代以上ということもありまして、私もこれ統計の専門ではありませんが、こういうアンケートが市民の意見の全てということではないということで、市民の声の1つとして捉えてるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

上越3市を中心に1,500人の方からアンケートの回答があった。大きな方向としては後で述べますが、切実な要求がそこに反映されているということです。

市民の声の1つとして捉えられますが、ほかの市民の声の1つ、あるいは2つとして、どのような捉え方を今考えられているのか、どのようにされるんですか。ほかのより、例えばもうタイミングは遅いと思うんですが、糸魚川市民に対してアンケートを行うとか、どのようなほかの声をつかむ具体的な段取りはございますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これまでも運行の課題と方向性については市民の対話集会、それから会社、県から議会へも説明がありましたし、また、上越3市議会への説明というのもありました。そういう中で特別に会社、それから市としては、これと同じような形のアンケートをとるといのは、予定しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

アンケートを予定してないのはわかりましたけど、今回のこのアンケート、上越3市の利用者、住民でありますけど、大きな方向としては、いろいろと確かに細かい分析はできるかもしれませんが、大きな世論の動向としては、私、これつかんでいいと思うんですね。

それで例えば紹介しますけども、切実な声をどういうふうにして反映していくかということで、運賃の値上げの話もありましたけども、運賃値上げ反対というのが、1.6倍の値上げじゃなくて反対だという方が8割近く。ディーゼル車でなくて電車による運行、これは大系線、北陸本線の利用者で7割、70%近く。それから列車の運行も、泊までという方が10%しかなくて、富山までの59%、金沢までの29%、合わせて、少なくとも富山というところにくれば88%になるわけですね。それから特急「北越」も、減便してでもいいから維持してくれ・56%、現行でいってこれというものが83%ということで、本当にこの特急電車の存続というの、望んでいるわけですね。

それで9月の下旬に、このアンケートの説明を聞いた。9月から今日まで運行計画が1月に出るそうですけども、9月、10月、11月、あるいは12月まで含めてこの数カ月間、このアンケートの結果から見て、運行の課題と方向性が見直しが求められているんじゃないかということはあると思うんですが、これらのアンケート結果を踏まえて、第三セクターの運行会社のほうでは、これらを踏まえて見直し、あるいはさらに検討がされていったのか、そういうことはありますかというのは、本間副市長、取締役に聞いたほうがいいと思いますが、いかがでしょうか。このアンケート結果を踏まえて、見直していくという、そういうことは会社の中でされているかどうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

アンケートについては、この守る会等から県のほうにも要望があって、説明がされたというふうには伺っております。

当然、私らも役員会等で、これらについての取り扱いを話をしていますし、やっぱり基本は費用は負担が少なく、利便性が向上するよということとは基本ですので、そのことを基本としながら会社の中に話をするとどこでありますけど、会社とすれば全体の経営計画がまだ決まってないわけですので、なかなかそこら辺がはつきり出なかったわけですが、市民の意見ということでは、やはり

こういうことをしっかり踏まえた中での運行計画、あるいは資金計画をつくっていただきたいということは要望しとります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

もちろん大いに要望していただきたいんですが、以前に出た運行計画、最後の仕上げの前の段階で、こういった大きな要望というものが具体的な形で、その見直しという作業の中で反映されていくのかということについてお聞きしてるんですが、そこをもう一度。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

詳細については、これから県のほうから、1月中には運行計画、あるいは資金計画等が示されるわけですので、それらの中でしっかり訴えてもらえると思います。それに対して、また市としてどういう考えかということ、さらには言っていくべきだと思っておりますので、考え方については伝えてあると思っておりますし、県もそこら辺のことは、それらを踏まえた中での運行基本計画等を、今考えているんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

この地域の会連絡会のアンケートでは、次のような結果も出ているんですね。そして私はこれも市としても、あるいは会社としても、国とJRに強く要望を行っていく内容であると思うんですけども、お聞きしたいと思います。

初めに、第三セクターの経営安定のためということで、国の補助制度の充実を・59%、国の責任で並行在来線を維持すべき・51%、JRによる運行を続ける・42%、このような高い数字が挙がっているわけです。また、第三セクターの維持のためにJRの果たすべき役割では、鉄道資産は無償譲渡すべき・45%、出資を含め経営に参加する・45%、修理更新して譲渡すべきである・43%、こういう高い数字と言っていいと思うんですが、出てるんですが、このようなことも市として、あるいは第三セクターの会社として、国とJRに強く要望を行っていくべき1つの大きな問題だと思うんですが、現状はどうなっていますか、要望されていきますか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

アンケートの中でもありますように、三セクの経営安定のためにはどうかということで、国の補助制度を充実させるべきだと、この点についてはしっかり県が責任を持って、国等に今まで交渉し

た結果が、780億円を確保できるということでの話につながってきてるわけですが、今このアンケートの中でもありますように、JRに運行を続けてもらいたいということは考えられないということは、お聞きをしております。

それから三セクでの経営のことでは無償譲渡、あるいはJR等が出ておりますが、これらについても県はしっかりJR等と交渉する中で、先般、富山県が発表されましたが、それに準じたような行動をとってるというふうにお聞きしておりますので、これらのアンケートについてのできることは、しっかり対応してるというふう理解をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

こういった地域の声、利用者の声、やっぱりこれを運行計画に大いに生かしていただきたいと思えます。そうでないと、非常にこの地域の利用者、住民の方の思いと、切実に感じられておられることとやっぱり離れていく。そのようなことがないように、ぜひともこの計画の中に反映していただきたいと思えますし、おそらく9月の末に説明を受けたんですから、9月、10月、11月、12月の作業の中で、このような地域の皆さんの要望が反映されているのではないかと思います。

この問題の最後ですが、12月2日に、これは高速道路ではありますが、中央道の笹子トンネルで、ご存じのように天井板が落下するという大惨事がありました。常識では考えられない事故だったと思えます。これも安全神話の1つと言っていいかと思えます。

鉄道のコンクリートでつくられたトンネルも、もう40年、あるいはそれ前後の日数がたって、やはりトンネルそのものの点検も必要だと思えます。というのは北陸本線の県内区間、60.6キロあるうちの約6割がトンネル区間でありまして。大小14個のトンネルがあります。そして、その中でも一番大きいのが頸城トンネルで、11.353キロメートルあるわけです。

前にも、私、この議会でも言いましたけども、この11キロ以上のトンネルの中を、燃料タンクを抱えたディーゼル車が運行していく。そういったことの危険性、安全対策をとること、そういったことを私は言ってきました。同時に、昨年5月の石勝線での事故、これもディーゼル車の特急でありました。あの特急の事故、脱線炎上事故のようなことを絶対にしたくないということで、私、いろいろ言ってきました。

地域の足として並行在来線、地域の足として、経済の屋台骨として地域に愛され、持続可能な鉄道を目指して、頑張ってもらって役割というのを担っていると思えます。持続可能な鉄道のためにも第一に安全、これはやはり基本中の基本になるかと思えます。安全対策、抜かりなく対応をしていただきたいと思えます。このことを申し上げ、最後の問題に入ります。

オスプレイの問題、9月の議会でも取り上げさせてもらいました。当時、オスプレイ（垂直離着陸輸送機）と言わないと、なかなかわからない部分があったんですが、今はもう3カ月たってます。オスプレイというだけで誰もが知っている、そんなことになっているんじゃないかなと思えます。

9月議会からの動きというのは、なしということなんですね。ルート周辺の自治体との連携も、今のところなし、反対を申し入れるということについても、今の時点では、そのような行動は考えられないという話でしたかね。ということでやっぱり9月の時点から、また情勢は進展してる

んですよね。あすにでも、この糸魚川の空を目がけて飛んでくるという可能性もあるわけですね。ちょっとタイミングとしては遅いんじゃないか、全体としては。3カ月間、何をしていたんですかということも含めてお聞きしたいんですが、対応が遅いんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

マスコミ等では在日米軍の司令官のインタビュー記事等が載っておりましたので、議員さんはその点についてはご存じかと思えます。

当方としては3カ月、何もしていたというわけではないわけでございまして、防衛省につきましてはホームページ等で、オスプレイの動向等につきましても、逐次載っております。そのようなものを見ながら、どのような情勢にあるかということにつきましては、我々のほうで把握をしているのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

全国知事会が7月に緊急決議を出した。あるいは長野県の市長会が決議を出したというお話、9月議会で紹介しましたが、つい最近の動きでは12月7日の日に、同じく全国知事会が声明を出しましたね、報道されております。オスプレイの本格運用に入ったことを批判し、政府が関係自治体に説明を行うように求める声明であります。

この中で、オスプレイの安全性については十分な説明がなく、地域住民の不安は払拭されていないというものであります。具体的な訓練計画、安全確保対策をはっきりさせて、住民の皆さんの理解を得るまで本格運用をしてはならない、こういった趣旨の内容であります。これぐらいの話はご存じですよね。どのように受けとめられましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

お話の件につきましては、12月8日の各マスコミで取り上げておりました。

知事会が申し入れた件については、そのとおりでございますが、その件につきましては我々とするれば、やはり情報収集の一環ということでございまして、それ以上、我々の立場としては申し上げる立場にないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

情報収集の段階を超えているということを一から言ってるつもりなんです、どうも理解をしていただけないようです。

このオスプレイの低空飛行訓練は、全国7つのルートが明らかになっております。この低空飛行訓練直下の自治体は21の県、138市町村にも及ぶと言われております。また、配備や訓練中止を求める意見書、決議はこれまでに、11月21日現在だそうですが、147の自治体で可決され、提出されております。このような周りが大きく動いている状況があるかと思えます。

それで私、お聞きしたいんですが、平和都市宣言というのを、この糸魚川市で行っております。平和都市宣言を行っている糸魚川市として、この問題に求められるやっぱり先進的、先駆的な役割というのがあろうと思うんですが、そこをどのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

情報収集をさせていただいて、どういうものかやはりしっかり把握しないとだめだと思うわけですが、ただ単にいたずらに、我々はいろんな情報があるからという形ではないだろうと思っております。どういうものであるかというのは、本当にまだまだ我々はわかりづらいところにあります。平和は絶対に大切でございますので、そのまま平和都市宣言を進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

糸魚川市の平和都市宣言、平成19年6月28日の宣言であります。5年前ですか、その最後の部分をちょっと紹介いたします。「糸魚川市は、市民とともに平和と安全を求める誓いを新たにし、核兵器の廃絶と戦争のない真の恒久平和を願い、ここに平和都市を宣言します。」、こういう最後の部分であります。

まさに今ここで言う平和と安全を求めるために、オスプレイの配備反対、低空飛行訓練反対という、この声をこの糸魚川市からも上げていくときだと思います。平和と安全という問題についても、もっともっと私は敏感になっていいこの問題だと思います。

このことを最後に申し上げ質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、池田議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩をいたします。

再開を2時35分といたします。

午後2時24分 休憩

午後2時35分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

13番（伊藤文博君）

新政会、伊藤文博です。

本日は、1、行政サービス向上、地域活性化に向けた庁内連携強化、企画力強化、職員の能力向上及び外部との連携強化について質問いたします。

- (1) 高齢者福祉に関する健康増進施策などとの庁内連携はどのように進めていますか。
- (2) 児童福祉に関する教育委員会と福祉事務所の連携についてはいかがでしょうか。
- (3) 教育関係施設管理に関する教育委員会と産業部の連携については十分に図られていますか。
施設管理とは、新築、改築、リニューアルを含む管理ということであります。
- (4) ジオパーク活用による交流人口拡大策に関する、商工会議所・商工会、観光協会との連携についてはどう図られていますか。
- (5) ジオパークに関する、国・県との連携については十分に図られていますか。
- (6) ジオパークに関する国内外各地域との連携についてはいかがでしょうか。
- (7) 職員の企画力を高め、陳情型行政から脱却して、市職員が自ら仕事を作っていく体質に改善することについてどう考えていますか。
- (8) 行財政改革の根本的課題である職員の意識改革に徹底的に取り組み、行財政改革を推進することについての具体的施策はいかがでしょうか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、高齢者の健康診査や介護予防アンケート調査の結果を健康増進課と福祉事務所で共有し、健康管理や介護予防に役立てております。

2点目につきましては、家庭状況等の情報を教育委員会と福祉事務所で共有し、要支援家庭に関

する支援の連携を図っております。

3点目につきましては、教育関係施設の営繕工事や改築工事については、教育委員会の技術職員で実施するほか、産業部の技術協力により連携し、事業を進めております。

なお、大規模な改築、改修事業については庁内検討委員会を設置し、設計内容についての協議、検討を行っております。

4点目につきましては、糸魚川ジオパーク協議会の構成団体として加わっており、各種事業において連携を図り、実施いたしております。

5点目につきましては、国土交通省、環境省などからジオパーク活動に配慮した取り組みを行っていただいているほか、各省庁が参加するジオパークの委員会を通じ、連携を深めております。

また、県の糸魚川地域振興局からは各種取り組みに参加いただき、密接な連携を図っております。

6点目につきましては、日本ジオパークネットワークにおいて普及啓発を推進するとともに、国内外、各地域との連携、相互交流をはじめ連携強化に取り組んでおります。

7点目につきましては、地方自治体の自己決定、自己責任という地域主権の流れの中で、例えば地域振興やジオパークなどの分野において、みずからが考え、外部と連携した業務の推進など、体質改善が図られてきてると思っております。

8点目につきましては、行財政改革の推進において重要と考えており、市民ニーズを把握し、みずからが率先して行動し、市民に信頼される職員となることを目指し、職員人材育成基本方針に基づき、今後も継続して人材育成を進めてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくご願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

聞き慣れた健康寿命という言葉がありますね。健康でいられる年齢を少しでも高くして、幸せな晩年を送ろうというものだと思いますが、この考え方に基づいて、糸魚川市の実態を分析したようなデータというのはありますでしょうか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後2時41分 休憩

午後2時41分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

健康寿命につきましては先日報道がございまして、新潟県の場合は男性が69.91歳、女性が73.77歳と出ておりまして、当市の内訳について、どのような形の数字が出ているかということで詳細を知りたいと思って、この間、妙高の課長と県庁へ行ったときお邪魔させていただきまして、要するにアンケートの個数が少ないんで、ちょっと公にできる数字じゃないということで、お示しをしていただけなかった状況でございます。翌年出したときに、数値が大きく変わる可能性があるということでした。

ただ、うちとしてもやっぱりデータとして欲しいということで、引き続きまたそういうデータをいただきたいということで、要望していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

必要なデータですね。糸魚川市独自でやはりその数字をつかむ努力も必要だと思います。

やはり高齢者福祉と健康増進のつながりというのは、やはり介護予防の観点からいっても、どこで介護予防になるのか。例えば一般の健康増進策から、どこの時点から介護予防になるのかというのは、これは役所的に考えれば担当の違いだとなってくると思うんですけど、実際には連続したものですから、やはり把握をしていってもらいたいと思います。

私も埼玉県和光市の例は、これまで何度も一般質問で取り上げてきました。ほかの議員からも取り上げられてきています。そのような経過から、行政では和光市の例を学習し、検討したということはあるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

大変申しわけございません。今初めてお聞きしたことで、まだ調べたことはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

和光市の例は、介護ヘルパーさんが、今までできたことを、またできるようにしたいということで、一緒に体操をしたり、食事をつくって一緒に食べて片づけをしてというようなことの中で、健全な生活リズムを取り戻していくというものです。これはもう何度も、ここで質問をしております。平成18年12月議会以来、私も多分3回は正式に取り上げて話をしておりますが、答弁の反応も悪くありませんでした。しかし勉強しとらんというのは、これはぐあいの悪い話ですよ。

総務部長、やはり職員研修ということでいっても、やはり議会の我々の立場で現地に足を運んで

勉強してきたことを、ここで何回も提言しているわけですけど、それについて実際に行政が取り上げないというのは、全くこれは問題にならん話だと思いますけど、どうなんですかね、取り組み姿勢として。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

議会のこのような本会議、あるいはそれぞれの委員会におきまして、議員の皆様からご提言をいただいたこと、あるいは今後こちらのほうで取り組みをしていきますよ、あるいは検討していきますよというお答えを申し上げたものについては、後日、庁内で整理をいたしまして、その後の状況の把握等に努めておるところでございます。

ただ結果として、今ご指摘のありましたような案件があったことは、大変申しわけなく思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ことしの総文の市外調査には、能生事務所が同行しました。先ほど答弁の中にもありましたよね。教育委員会も一緒にという意向が示されました。そういう意味では意識が、ちょっと変わってきてると思うんですが、しかし、昨年視察してインパクトの強かった大仙市に優先して行くように言いまして、ことしは我々の視察には、教育委員会は行かなくていいよということにしたんですね。

先進事例は情報を取るだけではなくて、実際に足を運んで、肌で感じてくるのが重要です。もう伝聞で何ぼ聞いていても、それをまたインターネットで情報を取ったとしても、実際のところわからないですね。

これは担当課から、そこへ視察へ行きたいという声が上がってこないから行かせないのか、予算がないから行かせないのか、どっちなんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

委員会の市外視察にうちの担当課長などが同行するということについては、基本的には我々は予算をやりくりしても同行できるように努めておるところでありますし、そういう申し出があれば、それに協力、支援もしていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ということになれば、各担当課の取り組みが甘いということですね。市外調査と一緒に行くのはいいですよ、それはまた機会を取り上げてもらえばいいですけど、実際にいろんな情報があったときに、そこに対してしっかり研究していこうという、貪欲な仕事に対する姿勢というのはやっぱり必要だと思いますよ。必要な知識を習得して、体験を経て、よい事業が計画、実行できるのに、いたずらに時を過ごしてしまうようなことがあったら、出張費どころじゃない。その後、実際にそこに取り組むまでの間、いたずらに無駄な事業を行っていることにもなりかねないということなんですよ。

今後どうしますか。もう少し庁内で意識を徹底して、先進事例の取得、それからいろんな計画の改善については、積極的に取り組んでいくというような姿勢は示せますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

これまで積極的について行くようにという指導なり、願いはしておりませんが、さりとて1つの委員会に10人もついて行かれても、またなかなか大変な部分もありますので、各課選抜で、特に研修することによって得るものが多いと思われる課を中心に、何人か複数の職員が同行できるようにはしていきたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

市外調査に同行することだけを言ってるんじゃないんですよ。その後の、いろいろこちらから情報があったときの対応のことも同じだと思うんですが、それはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

一般質問等で先進地の事例をお聞かせをいただくことがあります。たまたまついて行けなかった場合もあるわけですけども、そういった場合に後ほど、それこそインターネット等で、そこで行われている概要を把握する中で、我々職員だけで視察に行くというようなことも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今回、教育委員会は大仙市へ行ってくれたそうですから、またその成果が何らかの形であらわれることを期待しています。

はびねすですね、介護予防としての利用状況というのは、どうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

お答えします。

はびねすにつきましては、特に介護予防に限定という形ではなく一般の方を対象という形で、いろいろ運動で利用していただいておりますし、また、入浴施設も活用していただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そこが連携と言ってるんじゃないですか。その答えじゃ当たり前ですよ。はびねすの今の施設に、水中運動用プールが計画されていたときには、そのプールに介護予防や機能回復として使えるように、車椅子の人がどう利用するかということまで議論されていたわけですよ。

はびねすでも高齢者用のトレーニング器具を、ちゃんとセットされてるんですよ。これは我々が視察に行っていく中で、豊岡市の施設を見たりして、そこにもやはり高齢者用のマシンが幾つかありました。そういう介護予防にも使われているということも、委員会の中でもずっと話をしてきたことです。福祉事務所との連携の中で、活用されていかなければならないですね。連携を図っていかなくちゃいけないんじゃないでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

介護予防の前段に、やはり大きく健康づくりがまずあると思いますので、そういうベースとしての健康づくりの拠点施設の位置づけになると思います。

介護予防になりますと、やはりどうしても各地域、もっと細かい範囲で地区公民館単位で、やっぱりいろいろ運動教室とかをやっていく必要があると思いますので、そういう使い分けをしていかなきゃいけないかなと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

はびねす自体が健康づくりの基地的な役割を果たしている、各地域では地域でやっている、これは介護予防でも、みんな一緒じゃないですか。だからさっきも言ったように、健康づくりと介護予防の境目というのはないわけですよ、実際には。だから、そこで考え方として連携したものが出てくることによって、より幅広い活用の仕方が出てくるということだと思いますので、ぜひ考え方にそこをプラスして、今、頭の中から抜けてるわけですから、そこをひとつ念頭に置いて検討しても

らいたいですが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、やはりはびねすというのは、少しレベルの高いところにあるものですから、なかなかそこへは直接行かないところがあるわけでございますので、なるべく今、運動に関心を持っていただけるような方向でずっときとったわけございまして、できれば究極的には、やはりはびねすのほうへ行くことが、より運動機能が高まっていくんだらうと思うわけございまして、まずは地区公民館を中心に運動にいそむように、また、運動に関心を持つように進めさせていただいた段階でございます。伊藤議員ご指摘のように、最終的には、はびねすへ行って専門的に、また指導なり、またはびねすのほうからも、そういった運動に対しての指導はいただいて、各地域の中で生かさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

介護予防には、器具を使う運動が適している人というのは、ほんの限られた人かもしれませんが、そのつながった考え方をしていることによって、また活用できていくということもあると思います。また水中運動プールが必要だということに対しても、またいろんな考え方がそこから生まれてくるんじゃないかと思っておりますので、よろしくをお願いします。

児童福祉のほうへいきます。

子どもに関することは、全てこども課ということになってましたよね、こども課をつくったときに。こども課がそういうことで設置されたわけですが、児童福祉に関しては、こども課の所管なんですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

そのとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そうすると、障害のある児童生徒の福祉というのは、どうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

障害のある児童生徒の教育的な部分については、こども課が中心になってやっておりますし、生活のサービスにつきましては、福祉事務所のほうで中心になってやっておるということだと思いますし、窓口がこども課でありますので、こども課がコーディネートしながら取り組んでまいっているということでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

さきに、じゃあちょっと規則的なところを確認しますが、行政組織規則、教育委員会組織規則では、児童福祉は、こども課子育て支援系の所管となっていますね。業務上は今の流れはわかります。障害児福祉は福祉事務所というのは、これは適切な流れなんだろうけど、規則と適合してるんでしょうね。でなきゃ規則を変えなきゃいけないっていう話ですけど、大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

実際には、いろんなことをやっているわけですが、一部、規則をうまく活用しながらという面もありますので、今後、その辺の整理はしていく必要もあろうかというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

うまく答えたね。規則をよく見て、実際と合った形で、しっかりと確認をしてもらいたいと思います。私が見る限りは、児童福祉は子育て支援係ということになっておりますね。福祉事務所のほうで、そういうふうにかかれております。ただ、障害児福祉は福祉事務所であるということですから、その整合性をただし書きなんかで、しっかりと整えてもらいたいと思います。

特別支援が必要な子どもたちについては、学校教育はこども課、障害児福祉は福祉事務所ということになってますね。この連携というのは、果たして十分に図られているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

障害児をお持ちのご家庭にとりましては、その子を支援するには、さまざまな分野からの支援が必要になります。そういう意味では、こども課、福祉事務所と連携をとらせていただきながら、生活支援をさせていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そうなりますと、ひすいの里分校でのいろいろな情報は、こども課と福祉事務所が共有して、障害児福祉に関しても同じように共有して、検討、対策をとるも行っていかなければならないということになりますね。

例えば福祉事務所の職員が、ひすいの里分校と連携を図って、教育委員会を通じてということになるでしょうけど、一緒に、例えば学校に運んで実態を把握する、教職員と意見交換をする、どういふ支援が必要なのかと、子どもの状態を確認するというようなことは行われていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

行われております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

この件については9月議会で、五十嵐健一郎議員が詳しく取り上げていますので重複する質問はしません。

1つの例として聞きますが、こども課、福祉事務所、保護者との連携の中で、重度障害のある児童生徒に対応できるヘルパーの必要性などということも、把握することができていると思いますが、対応できるヘルパーさんというのはおられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

ヘルパーにつきましては、介護をするという意味でヘルパーはいらっしゃいます。また、ひすいの里分校に通ってられる重度のお子さまにつきましては、保護者の方がいらっしゃいますので、原

則は保護者の方が支援をするということになっております。

また、長期の休みの場合には、お家の中で支援というよりも、ほかの施設で1日お預かりするという支援を行っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

大きい枠でいくと、多分そういうことなんでしょうけど、実際には重度障害児をちょっと見てほしいというようなことの中で、ヘルパーさんに対応してもらいたいようなケースはあると思うんですね。実際、重度障害児に対応できるヘルパーというのは、いないんじゃないかと思うんですけど、その実態と、それから今後、やっぱりそういう実態に応じて、養成していく計画などというの必要なんじゃないかと思います。

こういうこともやはり学校と連携する、保護者との連携の中で、実態把握の中で不足している部分を積極的に、計画的に何とかしていこうという姿勢が必要だということなんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

障害をお持ちの方を地域で支えるという意味では、今後必要であるというふうには思っております。しかしながら、重度のお子さんに関しましては、医療のかかわりもあります。そうしますと、介護職だけの対応は難しい場合もございますので、勉強させていただきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

確かに難しいと思うんですよ。しかし、そこに対応してあげないと、やはり保護者の負担を軽減することはなかなかできないと思います。

私も実際に、知り合いの中にそういう方もおられて、話を聞いてみますと必要性をひしひしと感じますね。やはりちょっとしたことの助けが非常に重要であるということですので、ぜひ取り組んでいってください。勉強するということですから、ぜひ実現する方向でお願いしたいと思っております。

次、教育関係施設管理のほうですが、昨年来、教育関係施設の改築やリニューアルで問題が多く発生しています。もともと教育委員会が、技術的な管理というのは難しいですよ。そこで建築技術者が何名か、今2人でしょうかね、配置されているようになってます。しかし、市内の公共建築物の教育施設が占める割合は非常に高いですね、教育施設が建築物の相当な部分を占めている。国

の耐震化推進方針で、多くの建築設計、施工が発注されています。

山ノ井の問題では、設計段階で審査をしっかりと行って、発注後の工事金額が、いたずらに膨らむことのないよう委員会でも集約されております。また、そのような方針を行政側からも確認しているところでもあります。

必要な場合に、部・課を超えて、設計委託の審査体制を組むというのは、さっき検討委員会を設置するということになってますが、実際、大規模なものということになってますけど、もっとも何かその連携が必要なんじゃないかなというような、実際、今までの経過を見て感じるわけですね。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

基本的に大規模といえますのは、基準とか何平米とか、そういうのはございませんが、山ノ井、それから今の小学校、中学校を3校やっています。そのぐらいが大規模ということになりますが、そのぐらいのになりますと、庁内の検討委員会を立ち上げまして関係各課が集まって、当然、建築技師も入りまして、設計の検討をしていくと。

それ以外のものにつきましては担当課、それから都市整備課の技術士と連携して、それぞれ設計の協議を行っているというのが実態でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今、その仕組みで十分であれば、問題は起きないということになるんですね。やっぱりいろいろとあるわけですから、そここのところの仕組みのちょっと足りないところは、やはり探ってみて、検討することが必要でないかと思えます。

糸魚川小学校の解体工事においても、増額の補正予算、専決が問題になりました。山ノ井の問題が学習されて、水平展開されていれば、そうはならなかった。逆に水平展開されているとは、ちょっと思いにくいというところがあります。

不適合という事例が発生したときの庁内水平展開、再発防止はどのような仕組みで図られているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

いろいろと今ほどご指摘のありましたような山ノ井の問題等、過去にも議会からご指摘を受けるような大きな案件があったわけですが、それらの状況を受けまして、私どもは庁内で問題点のところを関係課のほうで、それぞれ問題となったところを洗い出しながら、どこら辺に当初の原

因があったのかというところを分析する中で、その問題を情報共有して、その後の同じような取り組みの中で、過ちを繰り返さないという情報共有と、対策の共有に努めておるところでございます。

そうは言いながらも、全く同じような事例はないわけですので、同じような状況のものを類推、あるいは想定しながら、対応策をとっていくということで努めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

その分析された結果ですね、例えば自分の課や係で起きるとしたらどんなものがあるか。要するに、危険予知みたいなもんですよ。そういうものをやらないと、多分連動していかないんですよ、その情報が自分の立場に連動していかない。そのことをやってるときは、そのことなんですけど、自分の机の上の仕事に向かったときは、もうそのことは切り離されているということになりますから、やはりそこの仕組みは、もう1つ踏み込んだ対応が必要だと思いますね。

それから設計委託については、今、入札制限価格がありません。これは前にも言ってきましたが、設計というのは労力ですよ、どれだけ時間をかけて設計するか。例えばリニューアルであれば、今までの建築物の図面をどこまで精査して見て取り組むか、そういうことになっていくわけなんですけど、これは安い価格で取ったら手間かけない、そこによってミスも起きると思うんですけど、これはやはり入札システムがおかしいと僕は思います。

教育委員会から、あんな安い金で契約さしたからこんなことになったんで、契約制度をちょっと考えませんかというような働きかけだって本当は必要だと思います。でも、こっちは企画財政の部分だということになって口を出さない。それでは仕事はうまくいかないと思うんですね。やはりそれぞれの立場でいろんなことを考えて、意見交換をしていくということが必要だと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

今、伊藤議員からご指摘の特に設計委託業務、これは今おっしゃられたとおりなんですけれども、庁内におきましても、特に昨年からの問題を受けまして、庁内の副市長が委員長でありますけれども、入札選定委員会の中においてこの問題を取り上げております。25年度から、まだ最低制限価格の設定というわけにはいきませんが、庁内でこのことは十分、今協議をしておりますので、また、県内の状況も設定しているところもあります。

設定していないほうが多いわけなんですけれども、他市の状況はともあれ、やはり製品の完成度の高さというのは、安ければいいとか、そういう問題ではなくて、安いにこしたことはないかもしれませんが、安かろう、悪かろうでは困るという観点から、庁内の、これは建設関係の全ての課長が入っておりますけれども、それらの中でこれまで検討も重ねておりますけど、まだ方向づけには至ってないという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

いや、真剣に考えんとだめですよ。設計なんて本当に手間なんですから。そうすると、いろいろな問題が出てきて、これに対して検討してくださいというので応えられなくなるでしょう、相手だって企業なんだから。その実態がわかっていながら、要するに設定してないところが多いから、してませんというのは、いつまでたっても先進地にはなれないですよ、いろんなもので。やはり独自の考え方をしていかなきゃいけないでしょう。今、糸魚川市で、これだけ問題が起きているということはどう捉えているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

今回のやはり大きい問題を十分認識しているつもりであります。

ただし、じゃあ今回の金額が安かったかどうかという部分につきましても、なかなか簡単には言えないことだろうというふうに思っています。建物の設計だけではありませんけれども、委託業務全般の中で、やはりそういったことが言える。特に設計委託のことは、一番気になるところであります。前向きに、庁内で進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ここで結論を出せて言っても無理ですから、しっかり検討してください。実態をよく認識してやってもらいたいと思います。

ジオパーク、商工会議所等との連携ですが、糸魚川市として観光協会にこれからですよ、今、新幹線開通に向けて、ジオパーク活用に向けて何を期待していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

観光協会との関係でありますけど、観光協会は合併して1年経過しました。現状は各支部の活動が中心になって、合体された形になっております。

今後、新幹線の開業とか、それからジオパークの世界認定、こういう経過を受けて、そこにかかわる人たち、会員総意の交流。その中からやはり業として、たくさんの人をここに呼んでいただけるような、先端に立っていただける組織に期待しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ヒスイ王国館の観光協会事務所ということになりました。サテライトオフィスが別のところにおいて、1階に来て、2階に移ったということで、今度は新幹線開通後の新幹線駅舎1階部分に、さっきの情報発信基地になるというような話もありましたね。これは場所がふえただけでは、全く機能しないわけですし、ヒスイ王国館と駅舎1階の連携した機能発揮と活発な活動が求められる。たしか観光協会さんからも、市と一体となった取り組みを期待する要望が出されていたと思います。

前にも言ったんですが、観光コンベンションセンター的な役割も果たしていかなければだめだと。観光協会の職員と、それから市の職員が同じところにおいて、常に一緒に行動する中で、お互いの役割分担の中で発展的な動きをしていく。どんな組織をつくったってマンネリ化するんで、それはやはり刺激を与え続けていかなきゃいけないんですが、そういうことは、やっぱりやっていかなきゃいけないんじゃないですかね、これから。その新幹線駅舎、1階が今度は活用できるのにあわせて、別々の場所において、時々打ち合わせをして連携をとるのというのは、もう効果が全く違うと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

観光協会からも先般、要望書が出されております。議員がお話のとおりであります。新しい1階の活用ですけど、先ほど関係課の課長のほうから施設概略についてはお話があったと思います。

既存の観光協会の案内所が北側にあります。そこはやっぱり従来からの商業連がずっとあります。今で言えば糸魚川のしっかり顔になっておりますので、その案内所の機能については、しっかり保たなければいけないというふうに考えております。

なお、南側のこれからできるものについては、そこと少しダブっていくような形にもなりますけど、ジオパークを軸にした観光案内、それを主体にしていかなきゃいけないんじゃないかなと。要望書に出された部分を含めて、どこまで調整が保たれるかということが、大きな課題であると思いますので、官と民がしっかり手を合わせて公開、ないしは誘客宣伝ができるような施設なり、中身にしていけばいいというふうに考えております。

特に観光協会については、支部機能というよりも、本部機能をしっかり拡充させるべきではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただいて、お答えさせていただきます。

今のまま合併したという形になっておるわけでございまして、そして今あるのは糸魚川地域のインフォメーション機能になっただけでございまして、その拡充だけではいけないと思ってるわけでございまして、本当に目的というものをもう1回見ながら観光協会、また、そしてジオパークのインフォメーション、そういったところをどうするのかというのを、しっかりもう1回連携

をとりながら、新たな体制でやらないとだめなような気がしますので、そういったところをもう1回再確認という作業が必要になるかと思うわけでございまして、そういったことを行いながら、新しい体制をつくっていかなくてはいけないと思っとる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

これは新幹線1階部分をどうするかという問題じゃないんですね。もっと観光全体の、ジオパーク活用全体の枠組みをどのように整えて、あそこをどう利用するかというだけの話であって、どうも1階部分の活用ということだけに偏っているんで、全体を見るところが欠けているような気がします。

観光協会の方が計画図を見て驚いたというような話も聞いていて、決して今、連携協議が十分ではないと思います。要するに十分じゃないというのは、やってるつもりだけど十分とれていないということは、やはり何か枠組みを変えていかなきゃいけないようなところがある。さっき私が言った職員を1人ないし2人を配置する。だけど、これは誰でもいいわけじゃないですよ。やはり能力のある人を配置してもらわないとだめなんですけど、それは1つの例です。そうでなきゃならんということじゃないですけど、できれば私はそれがいいと思います。しかし、それをどういう仕組みにして、そこで生かしていくのかということが重要ですね。

私がちょっとリーダー的立場で話をしている場でよく言うことなんですが、内部コミュニケーション、打ち合わせは非常に大切だと。しかし、それは相手の立場と人格を尊重した打ち合わせをしていかなきゃいけない。それを徹底的に図ることによって、あらゆるものがうまく回っていくということです。でも、そういう場をつくらないとだめですね、それは会議とかじゃだめなんですよ。常に顔を合わせて、いろんな話をしていくという、お互いに足を運び合って話をしていくようなことでなければならんというふうに思いますね。

それで市民協働、市民参画と言いますけど、これは参画する市民側だけでなく、一緒にやりましょうと働きかける、受け入れる側の行政側の姿勢が、もう本当にこれは適切でなければ、この関係は成り立たないと思うんですよ。どうしてもどこかに壁がある、それが実態だと思います。それを認識してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

先ほど来、渡辺議員の一般質問の中にありましたように、市の行政運営の中では市民の皆さんとの協働というのが、非常に今の時代は求められておるとっております。

そういう中では、意識をして進めておるわけでございますけれども、なかなかコミュニケーションをとる中では連携が、ただコミュニケーションの言葉だけで交わしていても、なかなか伝わってない部分もあるんだろうというふうに思っております。

100%それぞれうまく伝われば、お互いにうまく進めていけるんでしょうけれども、そこら辺

が、まだまだ問題があるんだろうと思いますので、連携のコミュニケーションのとり方には、いろんな手法があると思っておりますので、その辺の手法については、それぞれ皆さんからも、いろいろなお知恵をいただく中で、また、他の事例等を学ぶ中で、少しずつ進歩するような連携のとり方を模索して、向上していかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

勉強して徐々にというもう段階ではないですね。やっぱり思い切ったことをしないとだめだと思います。

今、新幹線開通、ジオパーク活用でというのは、もう100年に一度のチャンスと言われてますから、やっぱり多少勉強して改善していくぐらいのことではだめだと思いますよ。しっかりと取り組んでもらいたいと思います。

ジオパークに関する国・県との連携ですが、今までの枠組みにとらわれない発想で、要求すべきところを研究しながら進めていかなければならないと。ジオパークは、まだ日本では赤ん坊のようなもので、知名度は全くないと言っていいでしょう。したがって、国・県の制度も十分であるとは言えないと思っています。あらゆる機会に、ジオパーク推進を訴えていかなければいけない。

国・県に補助制度を要求するだけではなくて、国・県がもっともっとジオパークを推進していくこと。各地域が連携して活動していくという取り組みも重要だというふうに考えますが、東京駐在が中央にいて、働きかける拠点ができましたね。これはこれで大変苦労してることと思いますが、十分に生かしていくだけの発想と後押しが必要であるというふうに思います。これは取り組み状況はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、いろんな普及啓発に向けて活動してるんですが、やはり横の連携、そしてどういうふうに展開していくかというのは、今、NPOの法人の中で役員体制、また委員会体制をつくっております。

そういう中で、今、連携をしながら、部門をつくりながら、働きかけをしていく方向であります。それは関係省庁はそういう形で進めますが、そして各地域のやはり連携も大事だということなんです。その辺がまだ各地域、地域の活動はしてるんですが、連携的なものは、今、日本ジオパーク会議、またそして、あとは担当レベルの委員会での発表報告会というのをやっておる状況でございます。まだまだ十分な展開だと思ってません。

支援をしていただく企業も大事だということで、そのほうへの働きかけもまだ十分にはなっておりません。横との連携が今ようやく動き始めておるわけでございまして、やはりスタッフ不足、財源不足があるわけでありますので、その辺の活動をできるような形を整えていきたいというのが、大きな課題になっとなるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

各地域との連携がさきに出ましたので、そっちにいきますが、上越3市合同研修会で、公益財団法人日本交通公社研究調査部長、梅川智也さんの講演の中で、ジオパークは全国的に無名であり、全国のジオパークに取り組む地域と一緒にPR活動をしなければならないと言っていました。

市長は日本ジオパークネットワークの代表であります。ネットワークでまとまったPR活動も、なかなかできてないと思うんですけど、これは現状と今後の取り組みは、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ある程度、関心とか、また関係のあるところには出向いとるわけでありますが、なかなか十分にできてないと思っております。

今、非常に関心が高まっているのは各省庁、関連する省庁、9つの省庁が、非常にかなりウエートを置いていただいとるわけでありますが、まだそういった民間企業の中においては、十分にやれてないと思っております。そういったところを、これからどのように出してしていくかというのが大事だと思っておりますが、それはやはり今ご指摘のように各地域の連携も、やはり各地域ごとに温度差があるのも事実であります。その格差というものを感ずる中で、それをどのように捉えていくかということも、今大きな事業だというふうにも思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ここでやはりジオパークが全く全国的には無名である、この事実をまずしっかり受けとめなきゃいけないと思いますね。これはもう要するに東京にいて、旅行会社の部長さんをしてる方がそう言ってるわけで、肌で感じていると。

そこでネットワークで、まとまったPR活動をしなればいけない。そこでどうするかということになると、今までやっていたことから、また1つ考え方を改めて、みんなに呼びかけて、取り組みをしていかなきゃいけないということになるんじゃないかと思うんですよ。この事実をどれだけ強く受けとめるかによって、これからの行動が変わるといふふうに思います。まず、ジオパークというものが全国的に知られなければならない。そしてジオパーク系魚川がありますよということだと思っんですね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに普及啓発は進んでないのは事実だと思うんですが、無名だということはないと思っております。要するに、ご存じのようにバスの中にも、はっきり世界ジオパークというものは広告宣伝の中にも位置づけられておりますし、また今、JTBの中でも取り入れられたり、全国農業観光の中にも、いろいろ位置づけられておるわけでございまして、その辺をどのように広げていくかというところなんだろうと思ってるわけでありまして、本当にそういった課題が大きいことも確かでございますが、そういう今展開の中で徐々に広がりつつあるし、そういったことをやる中において、今、世界ジオパークの国際会議をやったことによって、かなりアピールもできたと思っておるわけでありまして、いろいろなやはり活動なり行動をしなくちゃいけないだろうと。そういう中において、各地域の活動もしっかりやっていかなきゃいけないだろうということは、自覚をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

やっぱり厳しい現実を認識しなきゃだめだと思います。その日本交通公社の研究調査部長さんが、我々ジオパークを推進している糸魚川市の議員の前で、そこまで言い切るといのは相当なことですよ。だからそれは例えば旅行会社とか、そういう人は知ってるけど、一般の国民には、ほとんど無名であるという意味だと思います。だから旅行会社で取り組んでいてくれるところがあるから、それは確かにそうでしょう。それは明るい材料ですけど、けどまだ実際に、全く無名なんだということを認識するところから始まらないと、何をやっていいかということが的外れなことになってしまう。ここは物すごい大事なポイントですよ。僕らはショックでしたよ、こんなことを言われて、でも、それを受けとめざるを得ない。それを事実と認識して、取り組んでいかなきゃいけないんです。そうだと思いますよ、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから我々も今、そういう普及啓発が一番大事だと思ってるわけでありまして。

ただ、それをどのように出していくか。我々といたしましても、ただやはり一番大事なのは、ただ単にジオパークと言ってもなかなか、現地へ行ったときの対応も大事なわけでありまして、そういったところをしっかりとやりながら、そしてこれは体験学習型とか、調査研究、そういった学習的な部分が多いわけでありまして。そういう中で、修学旅行協会の広がり等も大切なような形で今捉えているわけでございまして、そういうことで進めている中において、今、非常に日本ジオパークに参加をしたいという各自治体がふえておるわけでありまして。そういったことで我々の活動は決

して無駄ではないんですが、今言ったように、一般の観光客までは広がってないのが大きな事柄だろうと思うわけでありますが、そういった中で、我々はその受け皿を、観光的な受け皿を、ただ観光だけというのは、非常に理解してもらうには時間がかかるわけでございますので、そういったところは、どのように切り口があるのかというところが大きいわけでございますので、そういった受け皿をつくりながら進めなくてはいけない。

特に、これはマンパワーが必要でございますので、そう簡単にはいかないだろう。看板だけで、すぐなるわけではございませんし、いろいろやはり対応が必要になってくるわけでありまして、そういったもてなしも、しっかりやらなくてはいけない部分だろうと捉えているわけでありまして。その辺をどのように広げていくかというのが、大きなやはりこれからの課題だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

各地域との連携を十分に図って、やっていってほしいと思います。

先ほどの国・県のところにちょっと戻りますが、これはこれまでも言っているところですが、ジオパークに関連した国土整備も大変重要な課題ですよ。この間、中央自動車道で大変不幸な事故がありました。これも我々専門家の間では、やはり「コンクリートから人へ」とうたった政策が、現実の姿となって、負の形であらわれてしまったものだというふうに思っております。あらゆる点検費用、維持管理費用が、あらゆるところで削減されている。国道だって走ると草ぼうぼう、もう維持管理の費用がどれだけ削られているか、あれだけでもよくわかります。

安心・安全な国民生活を守るための社会資本整備はもちろん重要ですが、ジオパーク保全活用のための社会資本整備も糸魚川市にとっては非常に重要ですね。これはついでに話す程度のことでなくて、しっかりそこに観点、視点、論点を定めた国・県との連携が重要であるというふうに考えますが、建設関係のほうでは、どういうふうに考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

このジオサイト、各ジオサイトというのはやっぱり自然の中にある関係で、非常に危険なところもあるわけでありまして。それを全て盤石にするというのは、なかなか難しい部分であろうかと思うわけでありまして、しかし安全というのは一番大事なわけございまして、それをどのように提供していくかというのが、非常に大切になるわけございまして、そこへ行くまでのアクセス、道路環境の整備というのは、これは大事だと思っております。そういう今の道路環境につきましては、特に全て一気に全部できるかというのは難しいわけでありまして、ある程度、利用者がふえておるところについては県と連携をさせていただきながら、また、必要であれば国ともやらなくてはならないだろうと思っております。そういう中で整備をさせていただいております。

特に、県の振興局につきましては、県道整備についてお力をいただいております。我々はやはり、ただ可能性だけでは話できないと思うわけでございまして、多少実績も踏まえながら要望させていただいて、連携をとらせていただきたいと思いますと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

その点についてはあらゆるものを、ジオパークに関連するところは、やっぱりジオパークに関連づけて事業化していくという姿勢を、職員共通で持ってってもらいたいと思います。

次、職員の企画力のほうにいけますが、現在の糸魚川市は、陳情型行政と言えます。これは陳情を受けるということですね、陳情するんじゃないで、地域からの要望を受けて行政が動き出す。

ところが、私は青海出身ですから、合併前の青海町は違いました。各地域から要望を受けて仕事をするというよりも、町の職員が町の隅々まで理解していて、みずからの考えで仕事づくりに取り組んでいました。職員の企画力が発揮されていたと言えます。これが本来の姿であるというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

行政運営を進めていく中では、市民の皆さんからの要望に基づいて、それをかなえていくというのも1つでございますし、今、伊藤議員がおっしゃられるような形で、市の職員が、みずから問題点を、どのように解決をしていったらいいかという視点で、市内の状況を把握しながら、私どもの事業の運営に企画力を発揮して対応していくと、その両方の組み合わせで取り組みをしていくことが必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そのとおりなんです。だから要望を受けないと、言われないと動かないという形ではまずいということですね。どっちかという、今、糸魚川市は、やはり陳情型のほうが色濃いんです。それは合併する前の姿と、した後の姿を知ってる私はよくわかっている、青海の人はみんなそう思ってますよ。それで現在の糸魚川市は、地域要望がなければ動かない。これは主体的じゃないですよ。もうちょっと言えば、要望があっても動かないということになってしまう。

これは青海にこだわるわけでもないし、公共事業だけ取り上げるわけでもないんですが、例として話しますと、青海時代の産業課の職員は、青海の山間地のことを隅々まで知っていました。予算要望も、みずからの考えを土台として、国、県、地域と連携して箇所を挙げ、積極的に災害に強い国土をつくろうとしてきた。今、問題がなければ現場を歩かないから、よくわかる職員がいなくなりました。営々として築き上げてきた知的、人的財産が、合併後わずか5年で消えてしまった

ような感じを受けるんですよ、私は。青海の山のことをよく知ってる人はいないですよ、今。この現実をどう受けとめますでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

ただいま伊藤議員のほうから、旧青海町のときの議員が感じられておった状況と著しく変わったではないかということですが、合併して非常に市の範囲が広がった状況もございます。したがって、1人、2人の職員で、市内の山間地域の隅々まで状況がわかるというのが、なかなか難しい状況でございます。限られたマンパワーの中で、できるだけ地域に密着した状況を把握しながら取り組んでいきたいということで、地域担当制をとったりして状況の把握に努めておりますけれども、今おっしゃられるような状況も、青海地域の住民の皆さんの中にはあるのかもしれませんが。そういう声も踏まえながら、今後の対応を考え、検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今、私が話したような現状は認識してもらいたいですね。本当にちょっと残念に思うところがあります。陳情がさきだということは、やはり陳情を受けないと動かないことになってしまう。やはりみずから企画して動くんだよという意識がさきに立たなければ、それに対して地域の声を参考として聞いていくというようなことでなければならぬだろうなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

行財政改革のところの意識改革に移ります。

これは再三言ってきていますが、行政改革は職員の意識改革なしには始まりません。意識改革は熱意がなければできない。意識改革していこうという強い意思と熱意、エネルギーです。意識改革が必要だという考え方、それはわかっていると思いますよ、皆さん。だけど、それだけでは決して形になることはないでしょう。これはやはりトップの熱意であります、またはトップ集団の熱意であります。熱伝導の熱源は市長であります。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々が合併したときのことを考えますと、そういった地域を幸せに導く我々は行政集団だということが一番大切であるわけでありまして。

そのようなことから、ちょうど合併10年、そしてまた北陸新幹線開業、そういったものを我々は1つの節目みたいな形の中で、まとまっていかなくちゃいけないだろうと思っております。本当に572名の職員が一丸となることが、一番大事なわけでありまして、なかなか皆様方の目に見

える中においては、そうでない見方もされるわけであります。

それも我々はわかる部分であるわけですが、本当にご指摘されるようなときが時々あるわけでありますが、そんなことがどうして起きるのかというような状況もあります。そういうことのないようにしていきたいと思っておりますが、昨日でしょうか、また1つの道路の竣工式、祝賀会にお邪魔させていただいたときに地権者の皆様の1人から、非常に頑張っておるから、本当に職員の対応がよかったというような話を聞かされた部分もあります。ですから、いろいろな職員がおるわけでありまして、本当に我々は同じ方向を向いて進んでいけるような職員をまとめていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

私は基本的には、職員の皆さんは優秀だと思いますよ、そして一生懸命仕事をしている。優秀で一生懸命やっていて、なおかつまだまだというふうになれば、なぜかという、これは意識の問題だと思うんですよ。どこかでやはり公務員という世界の中で、自分がいる状況というのがよくわかっていないことになって、厳しさが足りなくなっていくということなんではないかなというふうに思います。そういう意味で、意識改革が必要なわけですよ。それが一番最初に来なかったら、行政改革は絶対できません。

やはり貪欲な姿勢がなければ、さっきから言ってる連携の話も、全部もう少し踏み込んで連携をとっていく。本当は認識したくない嫌な現実もちゃんと受けとめて、それに対してしっかり向き合って、徹底的に考えて対応していくという、その力が求められているのではないかな。それが今言う意識改革のところだと思うんですよ。意識改革をして、そうならなきゃいけないと思っておりますが、市長、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も全くそのとおりだと思っております。ややもしますと、やはり公務員という1つのポジションのところ閉じこもってしまう部分があるのではないかと。当然、そういう1つのやはり自分たちが縛られているルールなり規則に縛られておる中においては、やはりそれを守らないかんとというような、よろいを着てしまう部分があるのかもしれない。しかし、それを我々はどのように今までの問題という1つの中において、課題になっているという状況であれば、それをどのように変えていくかというような1つの努力もせないかんと部分だろうと思っておりますので、ですから、これからはやはり目的というものに向かって、どのように進めていけるのかということをお考えないかんのだろうと思っております。

そのように、これからも我々は導いていかなくちゃいけないし、指導もしていかなくちゃいけないだろうと思っております。それがやはり意識改革であり、また、市民に喜んでいただける行政

になっていくんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

最後に、問題に真っ正面から向かい合って解決していくことをお願いしまして、終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩といたします。

再開を3時55分開会といたします。

午後3時41分 休憩

午後3時55分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、鈴木勢子議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。〔25番 鈴木勢子君登壇〕

25番（鈴木勢子君）

25番、鈴木です。

発言通告書に基づき3項目質問いたします。

1、慎重さに欠ける放射性物質を含む汚泥受け入れについてお尋ねいたします。

去る11月13日の市議会全員協議会において、放射性物質を含む汚泥をセメント会社2社が受け入れることについて、市長は「これまで慎重に検討を重ねてきた結果、市民の安全が確保できると判断した」と了承する意向を明らかにしました。

そこで次の点について伺います。

- (1) 市民の安全が確保できるとはどのようなことなのでしょう、「糸魚川市民憲章」の精神とかけ離れた判断ではないでしょうか。
- (2) 市民の理解は十分に得られているのでしょうか。一方的で丁寧な説明に欠けているのではないのでしょうか。
- (3) 低線量の内部被ばくはないものと判断をしているが、専門家でもない市が10年20年先のことについて責任をもてるのでしょうか。
- (4) 風評被害や交流人口拡大などへの影響を考えているのでしょうか。
- (5) 9月定例会最終日に市議会が全会一致で可決した「意見書」を、市はどのように受け止め

ているでしょうか。

2、子育て一貫教育と地域格差についてお尋ねいたします。

9月定例会一般質問で取り上げた「子育てにやさしい社会の実現」についてワークライフバランスの実現への続きです。

(1) 母親の就労がかなわないような実態をしっかりと把握しているのでしょうか。市内における病後児保育の整備はどうなっているのでしょうか。

(2) 児童館と放課後児童クラブの位置づけを同一視しているのではないのでしょうか。地域格差をどのように是正していくのか。これまでの「あずかる保育」からの転換ができないのでしょうか。

3、障がい者と高齢者への交通手段と支援についてお尋ねいたします。

社会的弱者と言われる人たちが毎日の生活の中で困っていることの1つに交通手段の確保があります。

そこで次の点について伺います。

(1) 当市における障がいを持つ人たちへの交通手段確保はいかがでしょうか。限られた補助では十分な対応とは言えないのではないのでしょうか。

(2) 高齢者への支援は合併後、年々後退をしており、このままでよいのでしょうか。高齢者が引きこもりにならないためにもさらなる支援拡大が必要ではないのでしょうか。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、法適用以下のものの処理であり、市民憲章の精神に反するものではないと考えております。

2点につきましては、7月から9月にかけて処理の内容について説明会を開催し、市民の周知を行った上で判断をさせていただいたものであります。さらに今月4日から6日にかけては市内3会場で説明会を開催し、ご意見をお伺いいたしております。

3点目につきましては、廃棄物処理法が適用される、1キログラム当たり100ベクレル以下のものの処理であり、実質的な影響はないものと考えております。

4点目につきましては、田中議員のご質問にもお答えいたしましたが、風評被害の発生を防止してまいりたいと考えております。

5点目につきましては、意見書を重く受けとめており、測定体制の強化や排出元企業及び市の三者で協定を結ぶ中で、市民の安全・安心に努めてまいります。

2番目の子育て一貫教育と地域格差のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

3番目の1点目につきましては、現在の制度に対するご意見もいただいていることから、制度の見直しの検討を進めております。

2点目につきましては、合併時と比べて減額となっておりますが、対象年齢を75歳から70歳に引き下げており、また、21年度からは半年間のバス乗り放題定期券の補助も実施いたしておるわけでございます、外出支援には有効であると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、糸魚川総合病院と病後児保育について、引き続き協議を進めてまいります。

2点目につきましては、目的や対象となる児童が異なっており、同一のものではありませんが、児童が放課後過ごす場所という点では、共通する部分があると考えております。

地域の実情や保護者のニーズに合わせて対応してきており、地域格差はないものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

それでは順番、恐縮ですが3番目から入らせていただきます。

障害者と高齢者の交通手段ですが、まず、市長が現制度の見直しということですので、障害者を持っている方への見直しが次年度に図られるかと思いますが、当市におけるこの補助体制、県内で私は決して高いほうではないと思いますが、福祉事務所ではこのあたりをどのように捉えて、今後の見直しを図っていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

県下の中で20市ございますが、糸魚川市の助成の額につきましては、一番最低の部類になっております。しかしながら、ほかのところで、例えば人工透析の方であれば2万円を限度にあげていきますとか、ほかの障害の部分で補助をしておりますので、一概には言えませんが、金額的には一番下のランクでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

人工透析の方は2万円で、一般の障害のある方は1万円ですよ。これは私も該当者の市民の方から指摘があって、いろいろ県内を調べたんですが、糸魚川市は20市の20位とは思わなかったんですね。加藤所長が言われるように人工透析の配慮もありますが、全体としては、やはり普通の障害の方ですよ、この方が私は1万円でいいのかどうか。交通手段、もともと車も運転できない、路線バスもなかなか使えない中で、年々高齢化になっていって困っているという実態もありますので、見直しに入るといいますから次年度への期待をしております。

それから2点目の高齢者も年齢は確かに70歳ですね、引き下げられたんですが、私は予算審査特別委員会でも、いつも旧青海町のことを事例に出して言っておりますので、ご存じかと思いますが、年々もう金額が後退していると。糸魚川市の場合は、非課税世帯ですよ、対象は。これは年間4,000円ぐらいって、ここにいる皆さんはバスもそうですけど、タクシーもわずかと思うけども非課税世帯の、平均で今650万円と先ほど池田議員の質問の中で数字が出てきましたけども、もう100万円程度の生活者の中で4,000円というのは重いんですよ。ですから旧青海町の1万円が8,000円になって、どんどん減って今4,000円になっている、この実情。

それからもう1点、バス会社に年間の金額、市が補助している路線バスの、これは幾らですか。私が把握しているところ、1億円を超えていると思うんです。ここをうまく利用できないですか。どうでしょう、課は今度こちらになるんでしょうか、路線バスのね。ちょっと違いますけど、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

突然ですので、路線バスの細かい単位までは持ってきておりませんが、約1億2,000万円弱というふうに把握しております。

ただ、路線バスと、この福祉というのは、利用者とかまた違うものでありますので、それは同列には少し論じられないのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

そうなんですね。でも実際に平均したら月約1,000万円、年間1億2,000万円。朝の通学とか、そういう一部の時間帯を除いては、日中このバスが、ほとんどの路線で乗ってる方が非常に少ないんですよ、いろいろと調べました。青海地域だけじゃないですよ。

これを私、このバス会社の補助金を削れとかというのではなくて、例えば今までオンデマンドもいろんなことが出たんですけども、何かもっと市民が利用できるシステム、これに変えていく。要するに補助をしているから、これでいいとかじゃなくてね、もっと市民の暮らしにとっては、何かいいシステムがあるんじゃないかというところを知恵を出していかないと、何かどンドンどンドン

高齢者だけじゃなくて、今度はみんなが高齢者になっていくわけですけど、活用を考えてみてはいかがでしょう、課長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

路線バスの利用については、基本的には乗らないバスも多いというのは承知しております。

各地の路線バスの運営等を地元の意見をお聞きしますと、例えば1便減らすだけでも、相当な抵抗があるというのも事実でございますし、それであれば乗っていただけますかということになると、なかなか思うように乗らないのもあります。

そういう中でいろんな施策、コミュニティバスなりデマンドも、ある地域では運用はしておりますが、そういう中で路線バスとデマンド、それからコミュニティバスの活用というのは、今後ますます詰めていかなければならない事柄だと認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

詰めていかなきゃいけないって認識しているわけですよ。ですから、やはりここは今に始まったことではないと思うんですよ。だからやっぱりしっかり取り組んでほしい。私は何も回数を減らして、補助金1億2,000万円を減らしていけということじゃなくて、もっと市民の生活のための路線バスであったわけだから、そこをうまく活用できる時間帯の配分とか。昼間はほとんどすいてますよね。だからどうして乗れないのかっていう、そういうところを検証しながら、今後の課題としてほしいと思います。

次、2番目の子育てに入ります。

これはあえて9月定例会の続きと書きましたので、続きをやります。会議録の最後、私は「児童館と放課後児童クラブの位置づけって違うでしょう、教育長、同じじゃないでしょう」、ここで終わってるんです。この続きをやります。

同じじゃないと思います。教育長は、児童館は県の補助でどうのこうのとかが答弁してるんですよ。県の補助を受けて、市が設立して運営していく。放課後児童クラブは、市が保護者の要望、それを学校が受けとめて、教育委員会が出てきたものに対応してるんですけども、私はそちらのお役人の考えじゃなくて、利用している子ども、しかも一貫教育、もう0歳から18歳まで一貫教育って竹田教育長のときに言ったわけでしょう、日本一も含めて。だからそこで発想も転換していかなくちゃいけないところを言った、この続きに入ります。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

児童館にしても、それから放課後児童クラブにしても、法に縛られた部分があるわけです。じゃ

あ、その法を無視して動けということになるのかなというのと、ちょっと私としては納得いかない。

児童館というのは、児童福祉法の第40条に規定されていて、児童福祉法上の0歳から18歳未満の子ども、これを児童と言うんですが、その子どもたちに健全な遊び場を与えるということですし、それから放課後児童クラブについては、児童福祉法の第6条の2の第2項の規定に基づいて、保育に欠ける子どもを預かる施設ということで規定されております。おおむね10歳までということですが、糸魚川市では高学年まで受け入れを行っている、ということなんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

それで私そういうことを、もうずっと議員を長くやっていますから知ってるわけ。そうでしょう、教育長、本当そうです。わかっていて何度もこの質問、旧青海町から取り上げてきたの、児童館。それは旧能生町を見本としてきたんですよ、児童館に関しては、伊藤仙太郎町長の夢だったんですね。P連も含めて、あそこにつくったわけでしょう。

今、合併しましたので新しい新市になって、能生の児童館はとってもいい使われ方をしているのは、地域の新聞等でも年間通してですよ、よくわかります。ですから放課後児童クラブは、また別ですよ。保坂 悟議員は学童保育という言葉で言われたけど、学童保育ですよ。

放課後児童クラブは、それなりに糸魚川小学校から、合併前でしたけど始まって、少しずつは広がってはいるんですが、私は全天候の遊び場、要するに0歳から18歳、児童館っていうのは、私は本当にいい施設だと思うんですよ。放課後児童クラブというのは、ほとんど学校の低学年だけど、この場合は高学年、利用者は少ないですけど、高学年。それで全天候、冬でも雨の日でも使える施設がある、こういうところをやはり日本一を目指すんなら、この整備もしていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。いかがですか、教育長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

学童保育の関係を、今、放課後児童クラブという言葉に置きかえてお話させてもらいました。

法的にもご存じであるということですので、糸魚川のことについてもお話させていただきましたが、ワーク・ライフ・バランスという形から捉えていくと、児童館でなくても学童保育、放課後児童クラブで、先ほどもお答えしたように保護者のニーズに従って開設しているわけですから、何ら問題はないと思いますし、それこそその保護者のニーズに従って動いている、子どもたちがそこを大勢希望しているということから考えていくと、児童館という、結局は一旦帰宅してからその施設へ行くわけですから、どうしても学校の規則の中で動いていく。そうすると児童館にいる時間というのも非常に短くなるわけですから、そういうことを考えていくと、保護者のニーズに従った放課後児童クラブのほうが、私としてはいいであろうというふうに判断して、今現在、推進しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

教育長、では土曜・日曜、休めない両親、こういった家庭はどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

児童クラブは、土曜日は開設しております。午前8時から夕方6時まで開設して、子どもたちがそこで過ごしているということでもあります。日曜日については、家庭もお休みの日もあるかと思えますし、それぞれの家庭で対応しながら、子どもの自由な時間の確保等々もあろうかと思うわけでございますので、そういった対応で保護者のニーズに応えてまいっているということでもあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

これまでの預かる保育はこうだったのね、これからは子どもたちを育む。だから能生の児童館は、とってもいいことをやってるでしょう。教育長、短い間でしたけど、教育長の席に座る前は能生の児童館の館長ではなかったですか、1カ月ちょっとぐらい。

どうですか、とってもいいことやってるでしょう。これを全市に、あっちこっち全部って無理ですけどね、せめて3地域、能生がありますよね、青海、糸魚川に広げません。そういう熱い子育てに対するエネルギーはなくなりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

エネルギーがなくなったわけじゃなくて、まだもりもりとしてるわけですが、やはり先ほどもお話したように、現在、学校の規則の中で、子どもたちはできるだけ生活の習慣を崩さないようにということで動いているわけです。そうやって考えていくと、やはり下校時刻等を守らなければいけない、それから朝の時間も開始が遅くなる。自宅学習をしてから集まってくる。そこでは食事をとってはいけないとか、そういういろいろな制限があるわけです。したがって、集まってこれる子どもたちも自然、近い距離にいる子どもたち、これが児童館に集まってくる子どもたちであるというふうには捉えていますので、それだったら大勢が遊べるところで、放課後児童クラブのほうがいいだろうなと思うし、日曜日は仮に天気がよければ、外でいろんな子どもたちと公園等を使って遊ぶこ

ともできるわけですから、いろんな判断材料は子どもたちに提供してあるとは私は思っているわけですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

してないから一般質問に取り上げているんですよ。いいですか。長岡市をご存じですよ。以前は、子育てするなら上越市って言われた。上越は大人の公民館、こどもの家があるでしょう、子ども専用の公民館。児童館もありますよね、上越市、でも、こどもの家が役に立っています。

長岡市は森市長の前の日浦市長のときに、何回もここで言ってますけども、小学校単位で、学区単位で児童館ってつくってきた。今はもう上越市を追い越しましたよね。森市長が全国の市長会の会長でもあるけど、建設省にいたということもあって、全然長岡市の子どもたちは、雪降っても雨降っても外で遊べないんですね。それで国、県の補助を求めていったけど、だめだったの。それでデータを出して、じゃあ長岡の子どもたちは都会の子と比べてこうだということを訴えて、国も認めて全天候の広場、てくてく広場とかあるでしょう。こういうふうに整備しているの。

私、こういうことを聞いて本当に悔しいんですよ。熱い思いがあったら、日本一を目指すんだったら、ここまでやってくれとは言わないけど、今の教育長の答弁を聞いてると、まるで能生の児童館を否定するようじゃないですか。じゃあ能生の児童館にかわって放課後児童クラブ、小学校はどこどこをやってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

大和川小学校にあります大和川児童クラブ室、それから糸魚川東小児童クラブ室、

25番（鈴木勢子君）

私は能生って聞いたんですけど、能生の児童館にかわるのを能生地域で。

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

すみません。能生地域は能生小学校の能生児童クラブ室でございます。

25番（鈴木勢子君）

1つしかありませんね。

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

はい。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

児童館に来る子は、その近くの子だけだといって、今、能生小だけでしょう。そしたら能生の谷もありますよね、ほかにも小学校。そういうところでも展開してください。

それで須沢地区のはびねすの建設、施設つくるときの段階で、プールとキッズスペースってあったんですね。これは教育長はよくご存じでないかもしれませんが、プールも棚上げ、キッズスペースも棚上げ。先ほどの伊藤議員の質問で、はびねすはレベルが高いというふうに答弁されてるけど。

須沢地区もいろいろと、子育て推進モデル地区ですかね、正式に。何か早くから市内でなつたでしょう。じゃあもうプールもさることながら、このはびねすの当初計画だったキッズスペースってどうなつたんですか。市民厚生常任委員会では、結構プールのことは出てくるんですけど、キッズスペースは今度そちらの所管になりましたよね。どうなんですか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後4時23分 休憩

午後4時25分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

失礼しました。

当初の計画ではキッズスペースがあったんですけど、姫川病院の問題で凍結になりまして、その機能につきましては青海総合福祉会館の中に、そういうスペースを設ける中で、現在の施設の中では、なくなったものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

姫川病院云々は、私もよくわかります。それで田海のふれあいに移つたのも、当初からじゃないんですよ。そういうふうに、ふれあいがつくられていたわけじゃなくて、少し改造してなつたんですけども、あれは、はびねすに併設していたものとは全然違って小規模です。

窓口が教育委員会になつたので、この須沢地区の子育てモデル地区ですね、これに絡めた、この地域でキッズスペースがそういうふうになつたって、こちらの課では言いますが、教育委員会の日本一の子どもたちを育むという、預かる保育から一緒に育んでいこうという、育てていこうという

観点でどうですか、新たな計画はありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

子育てについて子どもの立場で考えたときに、自分で遊びを考え、判断して、生活をしていくということは、非常に大事な部分だというふうに思います。そういった子どもの思いと、それから保護者の安全・安心の思い、そういったところの中で、今後変化はしていくものとは思いますが、現在の段階では保護者のニーズからすると、児童クラブへのニーズが非常に大きいということで、田沢小学校にも児童クラブ室があるというふうに考えて、取り組んでまいっておるということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

熱さの違いというか、熱意の違いですね。本当に皆さん、もう少し長岡市も見てきたり、上越市は近くですよ、どういうふうに放課後も含めてやっているか。

系魚川市の女性の就労、実態をきちっと把握して、ワーク・ライフ・バランスという横文字を使いましたけど、仕事と家庭の両立ですよ。

それから男女共同参画推進月間、6月のことをちょっと引き合いに出しましたけども、女性の就労率が上がれば税収も上がってくるんです。99年に男女共同参画基本法が国会でできて、このとき旧1市3町、名立町を入れて物すごい熱いものがあったの、青空を見て進んできたんです。合併したら全然、もう曇り空になってる。

このとき実行委員会をつくって、名立も含めてやったときのメンバーで、私は斉藤企画課長もこのメンバーに入っていたと思います。企画課長、この系魚川市における男女共同参画の推進ね、これ実際にどのように受けとめていますか。十何年ずっとやってきた、私、記憶あるんです。間違っていたらごめんなさい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

当時1市3町で、平成13年の秋の取り組みであったかというふうに思っています。11年ほど前のことだと思いますけれども、いずれにしましても、旧系魚川市でも非常に時間をかけながらでありましたけれども、男女共同参画の計画をつくりました。確かに法は整備されても、法律はあくまでも基本法でありますので、強制ではないというふうに思っていますけれども、系魚川市では取り組もうということで取り組んできて、その後、合併に至っております。

非常に地道なことでありますけれども、このことはやはり基本法にうたわれているとおり、今の

社会を形成する中で、男女がお互いに尊重し合うという基本理念の中では、やはり底流に流れる、建物でいえば1つの土台になるような考え方だろうというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

計画があります。しっかりとその計画を見ながらやはり進むしかない。これは人口対策にもなるんですよね、少子化対策。皆さんのほうが、しっかり勉強してたら、私がいちいちこの場で、何回も何回も同じ質問を出さなくてもいいということなんですけど、計画はたくさんあっても、どうしたらいいかわからないというのが実態だと思いますね。

次世代育成もそうです。次世代育成支援行動計画、時限立法でしょう。ここのところを踏まえて、子育て日本一を目指しましょう。教育長、お願いいたします。熱いエネルギーがあると聞いて安心しましたので。

次、1番目の放射能の汚泥問題に入ります。

市長は7月からずっと説明会を開いていて、これで判断したというふうに言われましたけども、市民憲章との精神、かけ離れてませんか、まず1点目で聞いたんですね。市民憲章、私が市長に1項目ずつ挙げて言うのは大変失礼だと思いますが、市民憲章の1番目の、この精神に反してませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

議員さんもこの汚泥の受け入れの原因については、もういろいろご存じだと思っております。

それで私どもといたしましては、いわゆる環境への負荷に変化があるかないか、きちっと測定をする中で、安全を確保しながら他の市の要請にも応えていきたいということでございますので、決して市民憲章に違反するものではないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私、市長って言うのに、何で部長が来るんですか。えっ、私、市民憲章に違反してるなんて言葉は使いませんよ。違反じゃなくて、この高らかに掲げた平成17年3月19日ですか。この精神を、1、2、3、4、5ありますよね、とつてもすばらしい。ここを目指して市民と行政、議会ももちろんですけど、一体となってまちづくりを新幹線開通に向けてやっていかなければ、糸魚川市は埋没するという危機感を持ってやってる。そういうことがなかなか通じない。皆さんは読解力がないですね、一般質問への、本当そうです。

市長、説明会を開いたうち、16回プラス今月3回、19回のうち市長は何回出ましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1回出席をさせていただきました。

また、その市民憲章には、私は反してないと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

1回、1回も11月5日、ついこないだですよ、糸魚川市のときだけです。それでその会場で、参加者からの質問で、市長は目新しい反対意見がないので受け入れるって、この目新しい反対意見ということ、どういうことを想定しているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

説明会、また、そこでいただいた意見というのは、私は全部報告をしてもらっておるわけございまして、それを全部見させていただいております。また、いろいろその中でいただいた意見、またいろいろご提言というのは、私もその中で判断をさせていただいております。いろいろな会の中でいただいている意見、本当に多くあったかもしれませんが、その中でいただいている意見と、なかなか変わった意見というものがなかったということで、今までの中で判断をさせていただいたということで、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

まず、子どもの将来、それから受け入れる総量の多さへの不安、それからジオパークへの影響、放射線の封じ込め、原則、こういったものに対して国の基準を守っているから、どれについても問題がないというふうに答えてますけど、国は1キログラムで100ベクレル以下、その基準ですよ。総量を決めてますか、全体の総量。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

クリアランスレベルというのは、今、確かに議員さんがおっしゃられたとおり、この事故以前から決められてるのが、放射性物質として扱わない廃棄物は100ベクレルであります。なお、その

総量について、特段決められたものはありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

今、新潟、長岡、三条、柏崎の5市で、岩手県大槻町から6,300トンで、言葉を言いかえたら、これだけ市民が問題にして騒いでいるわけでしょう。5市ですから、1つの市にはもっと少ないわけですね。私たちは全員協議会的时候にも言いましたけど、全員協議会は記録に残らないので、市長もあえてあの場では一般質問でやってくださいと言われたので、今取り上げたわけですが。

私たちが、今、セメント会社が受け入れようとするのは、1社でも6,300トンじゃないでしょう。浄水場の汚泥のほかに下水道がありますよね。下水道をどれだけ受け入れてきましたか、2社で。4月から10月までは、明星社はこのデータで約2万トンですね。ほかの今まで、昨年の3月以降ずっと、5月から受け入れてきたこの下水道のほう、どれだけありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

データとして今持っているのは、4月から11月までのデータでございます。それ以前のはちょっと今、手元に持っておりませんのでデータとしてありません。今4月から11月までですと、明星セメント株式会社で1万8,172トン、青海電化工場株式会社で6,821トンでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

10月までのデータは13日の全協でいただいた資料にあるんですね。このときで約2万トンですね。今お聞きすると、もう2万5,000トンですね、下水道汚泥だけでね。それで上水道もあるわけでしょう。

国は総量を定めてないから、この先いつまで続くんですかっていうのが市民の心配。私、13日に出された資料、質疑応答集というのをまとめましたね、担当課で。これ1ページからずっと6ページまで、担当課では放射能そのものに対する質問とか、受け入れ機関についてとか、項目別に輸送方法とか保管と。これはきちっと整理されて、私たちに示してくれたと思います。ざっと数えて100近くあるの。パブリックコメント、どんなものを募集してもこれだけ来ないのに、市民はこれだけ心配してるの。私ね、涙出ましたよ、本当に笑えない。市民は真剣なんですよ。

そこでいろいろ、ここの1項目ずつ、これで安全って判断できるのかと。時間がないので、例えばですよ、測定場所、場所についても山ノ井保育園、中央保育園、糸魚川小学校も入れてほしいというのもありましたよね。私、調べましたら工場周辺4キロ、4キロの中に小中学校、それから保育所、幼稚園を含めて何カ所あると思います、電化社と明星社、そちらの資料で調べました。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後4時42分 休憩

午後4時43分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

私、今ちょっとざっと数えたんですけども、まず、電気化学の中で小学校が2校、それから保育園が3カ所、それから中学校が1カ所。それから明星セメントの4キロメートルの範囲内では、小学校が4校、それから保育所が5園、中学校が1校というふうになりまして、計、小学校が6校、保育園が8園、中学校が2校というふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

長岡市の栃尾地区でも瓦れきの試験焼却が問題になっていて、私たちは特別委員会でも栃尾へ行ったことがあるんですが、非常に山の奥というか、中心部から離れてる。糸魚川市のセメント工場って、土地がないから当然ですけども、これだけ市街地の小学校、中学校、それから保育園、幼稚園、これだけあるんですよ。2つの会社の検査、6だけでしょう。今井小は3キロに入ってるから、当然、今井小がなくなるから、もう5カ所ですよ。こういうものを議会は慎重にしてほしいという意見書を全会一致で出して、重く受けとめているんだったら、これから会社に小中学校、保育所も含めて私4キロは、本当は4キロじゃだめですけどね、やるべきですよ。

私、毎日5階と6階、ここを上がってくると、もう何かくせになって、煙突の煙がどっちへ行ってるか見てるの。一定じゃないんですよ、1日、朝と夕方ですね。それで、この会社がやっている測定も晴れの日ばかりですけども、例えば風速、風向、風向きとかによって違ってくると思うの。さっきから何回も言うけど、総量が多いでしょう。もう5市のレベルの数字じゃないわけ。ここを問題として、真剣にやってほしいってことをお願いしてる。

それから11月22日に市民連絡会主催で、課長と部長が出たとき、市長は出てませんけど、市民の若いお父さんも、測定についてお願いします、お願いしますって何回も言っても、部長はやりませんって言い切るでしょう、やりません。市長のように言い切るあなたのその態度を見て、私は怒ったでしょう。市長でもないのに。忘れてるの、笑いでごまかしてた。だから慎重にやるという

ことは、誠意を持ってやるっていうこと。そういうことを踏まえて、もっと真剣にやりましょう、これ。1年先、2年先のことじゃないの。10年、20年先のことを私は問うてるわけですよ、どうですか、部長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今まで説明会の中で、やはり心配されている保護者さんも大勢いたというふうに私は認識しております。そういった中で、特に私ども今まで測定していなかった小さいお子さまのいらっしゃる保育所、それから小学校等につきましては、測定の箇所をふやす予定であります。

なお、いろいろ皆さん方が心配してますように確かに総量は多いですが、セメント処理ということで、いわゆる通常の焼却場ですと、焼却灰が非常に問題になります。いわゆるそれが濃縮されて、その焼却灰をいかに流出させないように埋め立てか、あるいは保管するかということです。

ところがセメントについては、もう鈴木さんにも何回も言うように、いわゆる濃縮工程がないということで、製品に取り込まれて、はっきり言えば薄まって、糸魚川市外に出ていくということで、非常に低い濃度であって、国についても、こういう処理方法が認められることでございますことから、私どもとしては、今、新潟市等、排出団体が非常に困っている状況で、これで埋め立ての場所が今後確保できたり、あるいは今までのように、低レベルでありますことから埋め立てとかに利用できれば、その時点でセメント処理というのを終了するというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

終了するということですが、じゃあこれ今年度の数字は示されました。次の25年度から数字はどうなりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

これも再三ご説明しておりますように、今の時点で、いつになったら汚泥の中の放射性物質が検出されないか、あるいは埋め立て場所がいつになったら確保できるかというのが明確でないことから、今現在、終わりの期限は申し上げられないということで、説明会でもお話をさせていただいております。

そういった状況でございますので、まず、セメントでの上水道汚泥につきましては、大体キルン1本当たり、1日30トンから50トンが処理限界ということで、その範囲内で処理が行われるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

どれくらいの総量が糸魚川市に持ち込まれるか、放射能のもう被汚染地帯ですよ。市民憲章にも書いてあるように、自然にめぐまれた本当にいいところ。いつまで、何年度まで続くかわからない。

じゃあ的を絞ります。県の企業局から1万9,000トンという数字を示されていますが、来年度はどれくらい予測していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

県の企業局につきましては、まだ協定等十分な調整が終わってないことから、来年以降、いつの時点から始められるかということが、まだ確定しておりません。そういった中で処理量というのは、当然、市の水道局で発生する部分、それから県の工業用水道で発生する部分、合わせて先ほど言った1日の処理量が決められておりますことから、それ以上の処理というのは難しいので。ただ、今現在、企業局から、どれだけ来年度処理するかというのは、数字が確定しておりませんことから、今ここで数字を申し上げられる状況にありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

議会が意見書で慎重を求めたでしょう。わからないと言った。私、県の企業局へ行って聞いてきましたよ。何で聞いたかっていうと、27日の特別委員会、一般廃棄物の大野地区での部長の発言によって、私は今までのこの汚泥受け入れは部長による自作自演という、そういうことではないんだけどもね、何かおかしいってずっと思って。他市が困ってる、困ってるって、向こうの議会の議員に聞いても全然知らない。誰が困ってる。それできっかけは27日でした。28日に県庁に行く用事があったので、14階の企業局へ行ってきました。1万9,000トンに何でなったかという、その数字はわかっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ちょっと質問の内容が、何でなったかということなんですけども、いわゆる福島原子力発電所の事故によって、大気中に放射性物質が飛散したことから、それがいわゆる福島県をはじめ新潟県も含まれますけれども、いわゆる山野に放射性物質が堆積したわけです。それが雨水とともに川に流れ込んでくるわけです。

そういった中で水道水や、あるいは工業用水道を取水する際に、浄水場で汚泥がたまるわけですが、放射性物質というのは、どうしても固定物質に付着しやすいことから、汚泥にたまりやすいということで検出されるもんでございます。それを今現在は処分するところがないから、上水道につ

いても、あるいは工業用水道についても、どうしても保管せざるを得ないと。ただ、保管の場所が限られていることから、だんだんその限界がきているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

そういう知ったかぶりをしないこと。去年じゃあ県の企業局で、今、売れなくなったんだけど、汚泥はどれくらいあったと思いますか、量、トン数。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ちょっとご質問がちょっとわかりにくいんですけども、いわゆる震災前の汚泥の量ということでしょうか、震災後にたまった汚泥の量というか、ちょっとその辺がはっきりわからないので、私どもとしては、今、皆様方にお知らせしているのは、県の企業局から聞いた今現在の汚泥の保管量を、数字としてお示したものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

読解力がないってそういうことですよ。県の企業局は、普通は1,000トンなんですって、肥料とかで。ところが何で1万9,000トンになったかっていったら、福島豪雨があった。阿賀野川、只見川、そこが氾濫してことしがこれだけになったということ。だから、いつもこんなでないですよ。そうなんですって、私も聞いてきてびっくりしてきたんだけども、それで売れなくなったものは、エコパークへ持っていったけども、エコパークでは地元との放射能との協定がないから、仕方なく今保管されている。だから来年度の数字は、県は変わってくると思いますね、豪雨がなければ。

そこで、もう時間がないのであれですけども、私はやはり慎重ということはどういうことかっていう、電気集じん機とか、いろいろ専門的なことも聞きたいんだけど、答える部長も専門家ではありません、私もそう。そこですよ。専門家ぶって言わないほうがいいですよ。

長崎大学の山下俊一さんという、今、福島県立の医科大の副学長をしている人の言葉をご存じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ご存じですかって言われても、ちょっとわからない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

議長（古畑浩一君）

鈴木議員、残り 8 秒ですからね。

25 番（鈴木勢子君）

野中教授のときの資料にあります。小さながんも見つかるだろう、甲状腺がんは通常でも 10 年先に出てくるといふ、そういうことが資料に書いてある。

以上。

議長（古畑浩一君）

以上で、時間がまいりましたので、鈴木議員の質問が終了いたしました。

本日はこれにてとどめ延会とさせていただきます。

長時間、大変ご苦労さまでございました。

午後 4 時 56 分 延会

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

+

議 長

議 員

議 員

+

+